第２回墨田区都市計画マスタープラン改定検討委員会

次　　第

日時 ： 平成18年10月17日（火）　午後6時～8時
場所 ： 墨田区役所12階　123会議室

１　開　会

２　議　題

（1） 報告事項

①　押上・業平橋地区まちづくりグランドデザイン最終報告について

②　墨田区都市計画マスタープランの一部変更について

（2） 検討事項

①　墨田区都市計画マスタープランの改定について

ア　めざすべき都市像について

イ　将来都市構造について

②　区民ワークショップについて

３ 閉　会

墨田区都市計画マスタープラン　都市像と将来都市構造について

－目　次－

Ⅰ　めざすべき都市像について

１．めざすべき都市像の検討の考え方 …… 1

２．アンケート調査の結果から導かれるキーワード …… 1

３．キーワードの整理－カテゴリー（類型化） …… 2

４．都市計画マスタープランの都市像（改定案） …… 4

Ⅱ　将来都市構造について

１．現行都市計画マスタープランの将来都市構造 …… 5

２．現在の都市構造の概要 …… 6

３．区内のまちづくりの動向 …… 8

４．将来都市構造の改定案 …… 9

平成18年10月17日

Ⅰ　めざすべき都市像について

１．めざすべき都市像の改定の考え方

（１）めざすべき都市像の改定の必要性

○　押上・業平橋駅周辺地区における新タワーの建設、人口減少から人口増加傾向への転換など、区を取り巻く社会状況は大きく変化し、区民の価値観やライフスタイルは多様化してきている。
○　新しい墨田区の基本構想では、「協治（ガバナンス）」を新たに掲げるとともに、魅力や活力あふれる「すみだ」をつくりあげていくこととしている。
○　都市計画マスタープランは、基本構想と整合を図るため、第１回改定委員会で定めた改定方針に沿って、めざすべき都市像も改定する必要がある。

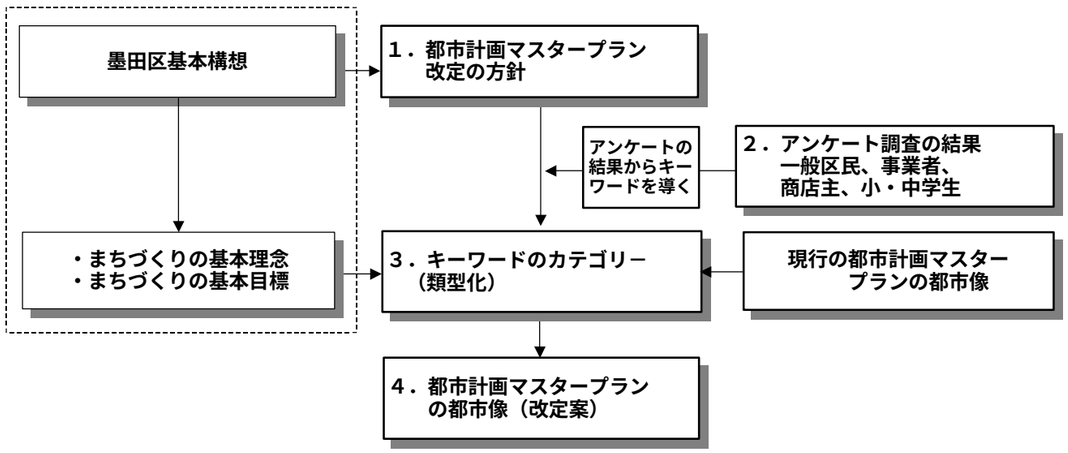
（２）めざすべき都市像の改定の考え方

めざすべき都市像は、墨田区基本構想におけるまちづくりの基本理念及びまちづくりの基本目標を基本に据えて検討する。
改定の考え方及びフローは以下に示すとおりである。

【めざすべき都市像の改定の考え方】

１．基本構想や社会状況の変化等から設定した都市計画マスタープランの改定の方針に基づき都市像を検討する。
２．区民の意向を反映した都市像とするため、実施したアンケート調査（一般区民、事業者、商店主、小・中学生）の「将来のまちづくりを考えていく上でのテーマ」、「すみだらしさのイメージ」、「まちづくりに対する要望」、「将来どのようなまちになってほしいか」の各設問の結果から、区民が想い描く「キーワード」を導く。
３．導いた「キーワード」を基本構想のまちづくりの基本理念、まちづくりの基本目標や現行の都市計画マスタープランの都市像の内容に整理し「カテゴリー」を導く。
４．分類した「カテゴリー」から具現化する都市計画マスタープランの都市像（改定案）を導く。

【めざすべき都市像の改定の考え方のフロー】

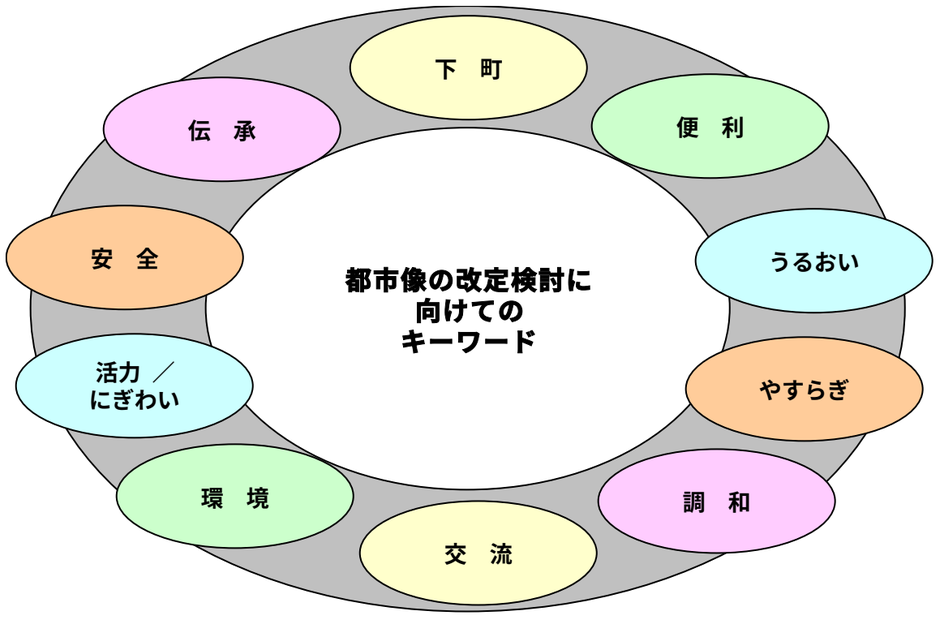


２　アンケート調査の結果から導かれるキーワード

○都市計画マスタープランの改定を検討するにあたり、区民のまちづくりに関する意向を把握するため、一般区民、事業者、商店主、小・中学生を対象に実施した。
○このアンケート調査において、「まちづくりのテーマ」、「墨田区のイメージ」、「将来どのような都市になってほしいか」などについて設問を設けている。
○これらの結果をみると、区民等がイメージする墨田区の都市像のキーワードとして、次の10つがあげられる。

・下町	**・便利**	**・うるおい**	**・やすらぎ**	**・調和**
・交流	**・環境**	**・活力/にぎわい**	**・安全**	**・伝承**

【アンケート調査の結果から導かれる「キーワード」】



3　キーワードの整理－カテゴリー（類型化）

○都市計画マスタープランの改定の方針は、基本構想の体系に合わせるため、現行の都市計画マスタープランの都市像と基本構想のまちづくりの基本目標とを合わせ整理することとしている。
○このことから、アンケート調査の結果から導かれたキーワードを基本構想のまちづくりの基本目標、現行の都市計画マスタープランの都市像にそれぞれ関連づけて整理し、以下の枠中に示す。

【基本構想のまちづくりの基本目標とつながりのあるキーワード】

まちづくりの基本理念
～水と歴史のハーモニー～
人が輝く　いきいき　すみだ

基本目標１　「すみだ」らしさの息づくまちをつくる

「すみだ」らしさの息づくまちをつくるためには、「**下町**」の家並みの保全、住商工の**「調和」**、様々な機能がある**「便利」**さ、隅田川・荒川などの川の流れやひらけた眺望から得られる**「うるおい」**や**「やすらぎ」**、歴史・文化の**「伝承」**、**「活力」**ある産業、商業地の**「にぎわい」**、様々な人の**「交流」**とのつながりがあげられる。
⇒「すみだ」らしさを表すキーワード：「下町」、「調和」、「便利」、「うるおい」、「やすらぎ」、「伝承」、「活力／にぎわい」、「交流」

基本目標２　地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる

地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくるためには、**「安全」**で快適な暮らし、利便性の高い（**「便利」**）快適な暮らし、**「うるおい」**や**「やすらぎ」**を感じる快適な暮らしとのつながりがあげられる。
⇒「快適」を表すキーワード：「安全」、「便利」、「うるおい」、「やすらぎ」

基本目標３　新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる

新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくるためには、移動の**「便利」**さ、歴史・文化の**「伝承」**からうみだされる新たな事業、まちの**「活力」**や**「にぎわい」**、異業種間の**「交流」**とのつながりがあげられる。
⇒「産業、歴史・文化」を表す**キーワード：「便利」、「伝承」、「活力／にぎわい」、「交流」**

基本目標４　安心して暮らせる「すみだ」をつくる

安心して暮らせる「すみだ」をつくるためには、災害に対する「安全」が確保され、「自然」や「環境」にやさしい住まいでの暮らしとのつながりがあげられる。
⇒「安心」を表すキーワード：「安全」、「自然」、「環境」

基本目標５　区民と区が協働で「すみだ」をつくる

区民と区が協働で「すみだ」をつくるためには、**「下町」**人情、様々な人の**「調和」**とのつながりがあげられる。
⇒人びとの「つながり」をキーワード：「下町」、「調和」

【現行の都市計画マスタープランの都市像とつながりのあるキーワード】

都市像１
災害に強い防災のまち
→
◆逃げないですむ燃えないまち
◆水害に強いまち
◆安全に避難できるまち
◆安心してくらせるまち

都市像２
快適に暮らせる魅力あるまち
→
◆誰もが住み続けられるまち
◆多様な機会に恵まれた魅力のあるまち
◆快適に暮らせる環境共生のまち

都市像３
活力ある産業のまち
→
◆住宅と工場が共存するまち
◆多様な機能が集積するまち
◆新しい産業を育むまち

都市像１：災害に強いまち

災害に強いまちは密集した**「下町」**の市街地、災害に対する**「安全」**性、災害時における人びとの**「調和（助けあい）」**とのつながりがあげられる。

⇒キーワード：「下町」、「安全」、「調和」

都市像２：快適に暮らせる魅力あるまち

「下町」情緒ある暮らし、様々な機能の**「調和」**によるまちの魅力、**利便性（「便利」）**の高い快適な暮らし、**「安全」**で快適な暮らし、隅田川・荒川などの川の流れやひらけた眺望から得られる**「うるおい」や「やすらぎ」**、環境にやさしい快適な住まいとのつながりがあげられる。

⇒キーワード：「下町」、「調和」、「便利」、「安全」、「うるおい」、「やすらぎ」、「環境」

都市像３：活力ある産業のまち

移動の**「便利」**さ、歴史・文化の**「伝承」**からうみだされる新たな事業、まちの**「活力」**や**「にぎわい」**、異業種間の**「交流」**とのつながりがあげられる。

⇒キーワード：「便利」、「伝承」、「活力／にぎわい」、「交流」

○次に、「キーワード」をもとに、基本構想に示されたまちづくりの基本目標と現行都市計画マスタープランのめざすべき都市像との関連を整理し、以下の４つの「カテゴリー」を得た。

墨田区の特徴を生み出す「個性」

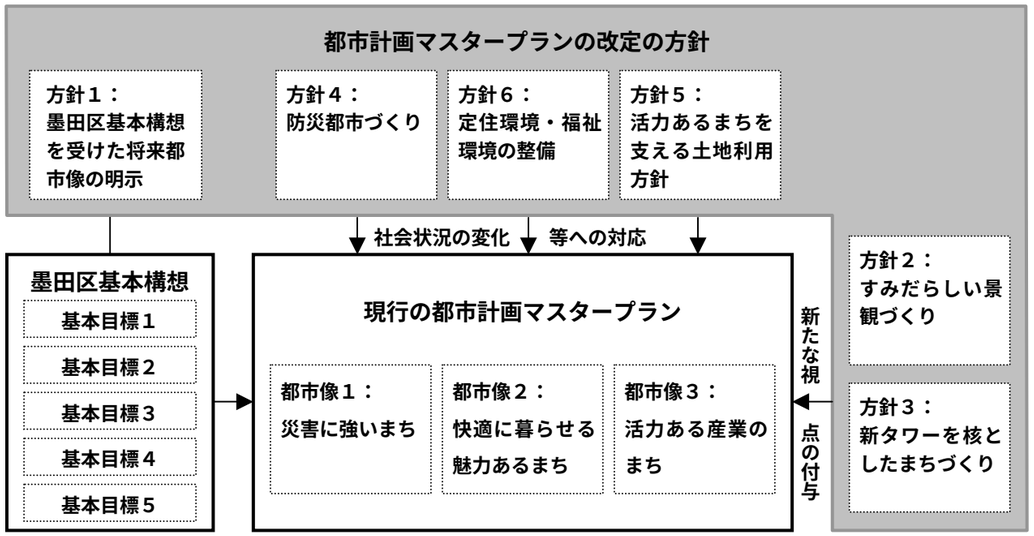
先人が築き上げてきた下町の「生活」

うるおいややすらぎを生み出す「自然」

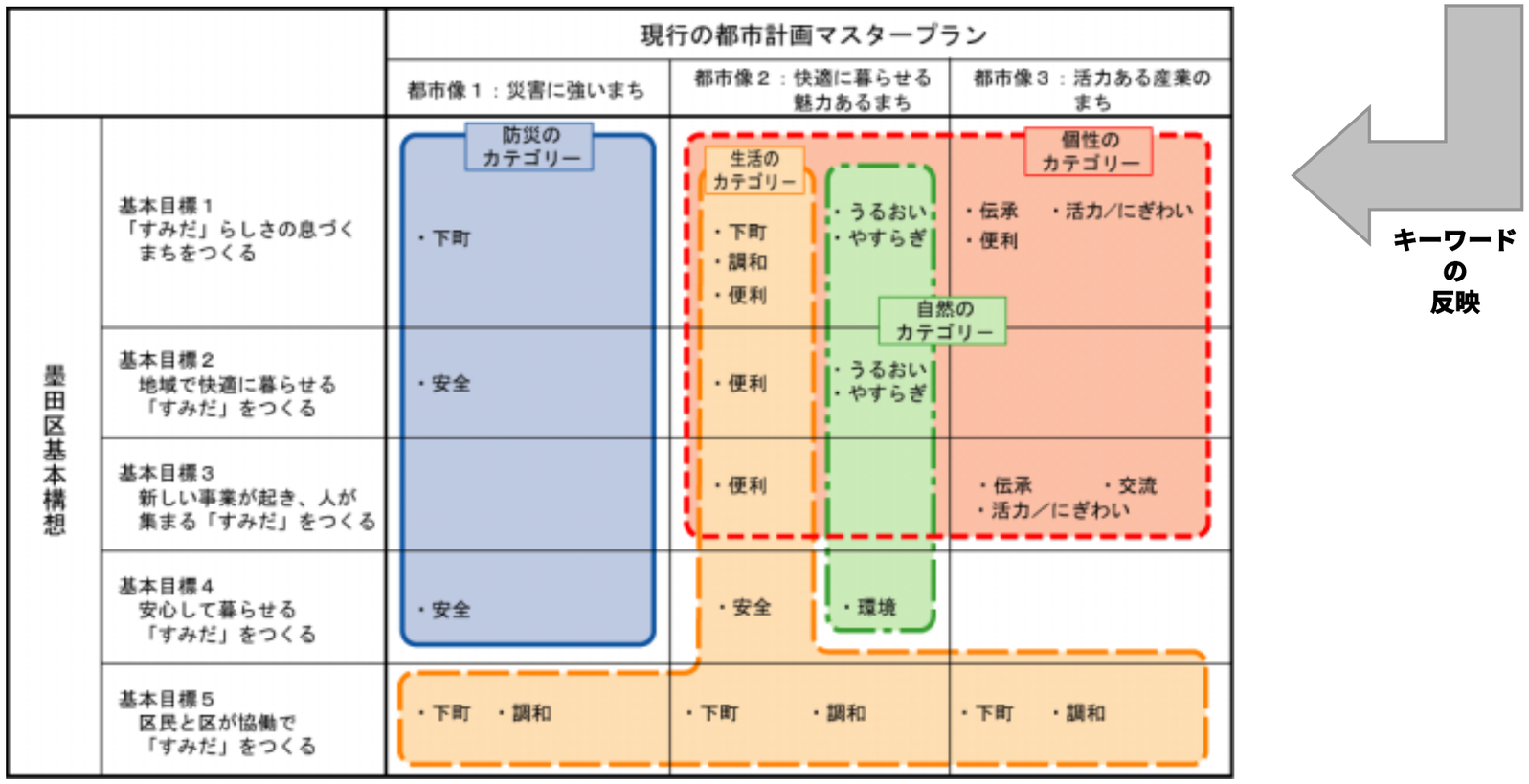
安全で安心なまちをめざす「防災」

○都市計画マスタープランの改定の方針の中で、新たな視点である方針２、３については、「個性」「自然」のカテゴリーに包含される。

○方針４、５、６については、「防災」をはじめとして「生活」「自然」「個性」のカテゴリーに構成される。



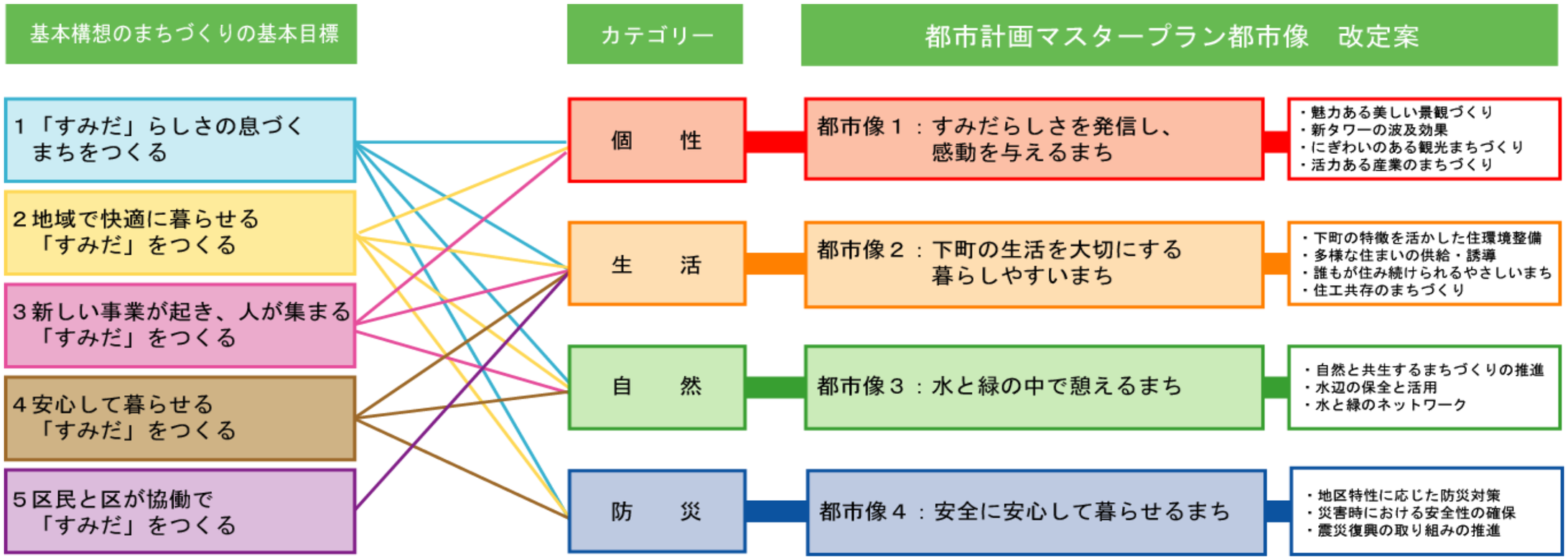
【墨田区基本構想と現行の都市計画マスタープランに示された都市像の整理】



4　都市計画マスタープランの都市像（改定案）

○このカテゴリーは、基本構想のまちづくりの基本目標と都市計画マスタープランの改定の方針と都市像とを関連づけたものである。
○基本構想のまちづくりの基本目標を軸として、カテゴリーから導かれる都市像（改定案）を検討し、以下に示す。

【都市像の改定案】



Ⅱ　将来都市構造について

１．現行の都市計画マスタープランの将来都市構造

①拠点の育成

１）広域総合拠点（錦糸町駅周辺地区、両国駅周辺地区）

東京東部地域の生活ニーズに応える商業中心として、また、東京の一極集中型都市構造を多心型都市構造へ転換するための業務機能の受け皿として、副都心ゾーンを形成する核となる地区を位置づけます。

２）広域拠点（押上・業平橋駅周辺地区、曳舟駅周辺地区、吾妻橋地区）

区民の日常生活に対するサービスに加え、買い回り品などの商業やサービス、娯楽、文化などの非日常的な区民の多様なニーズに応えられる地区として、広域拠点を整備・育成していきます。

３）生活拠点（鐘ヶ淵駅周辺地区、八広駅周辺地区、東あずま駅周辺地区）

区民の日常生活に対する商業やサービス機能の集積を図る地区として、生活拠点を整備・育成していきます。

４）文化・スポーツ拠点
（両国地区、隅田公園・向島周辺地区、錦糸公園周辺地区、東墨田周辺地区、文花地区）

区民生活の高度化と余暇時間の増大に伴い、文化活動やスポーツ・レクリエーションに対する区民ニーズが高まってくると予想されます。文化・スポーツ拠点は、そうした区民ニーズに応えられるように、文化やスポーツに関する機能を整備・充実していく拠点です。

②拠点連携軸の形成

１）副都心軸

都心部から連なり、両国、錦糸町、亀戸を連携させ、副都心を形成する軸です。この軸沿いでは、錦糸町駅周辺地区や両国駅周辺地区における拠点整備に合わせて、広域幹線道路である京葉道路や蔵前橋通り沿いにおける商業・業務機能の集積強化、北斎通りや馬車通り沿いにおけるファッションストリート構想の実現など、副都心ゾーンとして整備・充実していきます。

２）区中心核軸

上野・浅草から吾妻橋地区、押上・業平橋駅周辺地区が連携する都市軸です。この軸沿いでは、吾妻橋地区と押上・業平橋駅周辺地区における拠点整備とともに、浅草通り沿道地域における商業・業務機能の充実など、区の中心核を形成する整備を行っていきます。

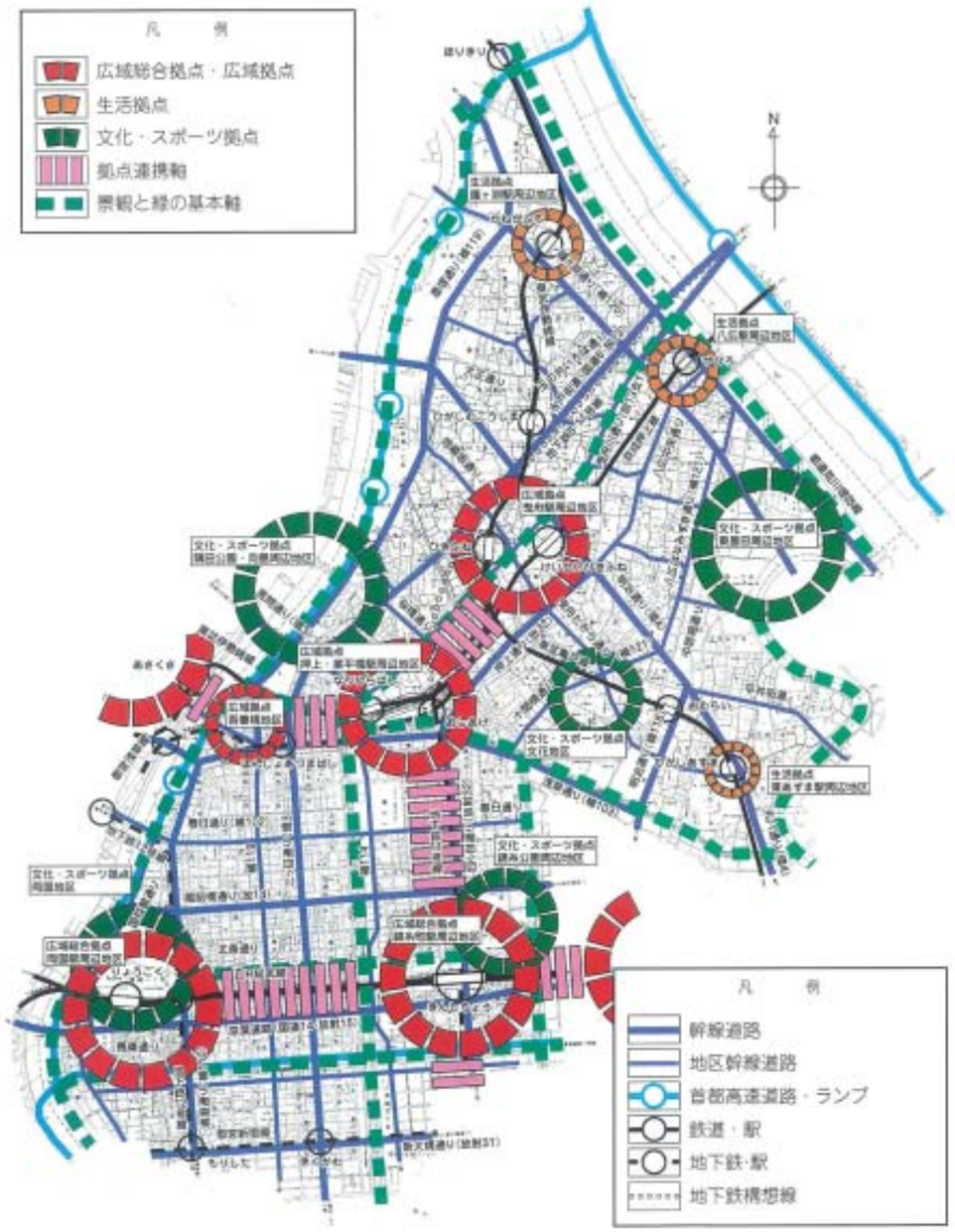
３）区南北軸

錦糸町駅周辺地区から、押上・業平橋駅周辺地区を経由して曳舟駅周辺地区へと至る、本区を南北に貫く中心軸で、地下鉄１１号線の整備に伴い、交通利便性を生かした様々な都市機能の集積を図っていきます。

４）景観と緑の基本軸

（前略）このため、これらの河川の空間や水辺と緑を利用して、文化・スポーツ拠点を結合させて、都市景観や緑化、文化などの基本的な軸と設定します。そして、この軸沿いにアメニティ関連の整備を重点的に行うとともに、周辺市街地における民間施設の誘導等により、軸とまちの中に点在する文化資産や水と緑の空間を結合して、魅力ある都市環境を形成していきます。

[将来都市構想図]



２．現在の都市構造の概要

①まちの成り立ち

区内の市街地を俯瞰すると、以下の２つに区分することができる。

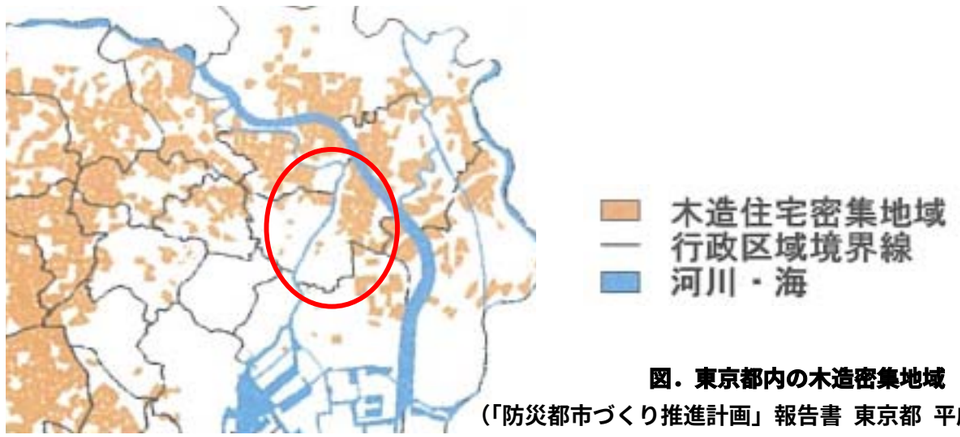
【南部地域】

南部地域は、明暦の大火（江戸時代）の際に、武家屋敷等の移転先として市街化がスタートし、震災復興土地区画整理事業と戦災復興土地区画整理事業により碁盤の目のような道路が整備されている。

図．南部地域の土地区画整理事業
（「墨田区都市計画マスタープラン」報告書 平成10年3月より）

【北部地域】

南部地域に遅れて市街化の始まった北部地域は、関東大震災からの復興に前後して急激な人口増加を迎え、農地の形状を残しながら住宅市街地が形成されたエリアである。幹線道路は概成しているが、内部には狭隘道路の多い木造密集市街地が広がっている。



図．東京都内の木造密集地域
（「防災都市づくり推進計画」報告書 東京都 平成16年3月より）

②東京圏における機能分担

【東京都市計画（都市計画区域マスタープラン（平成16年4月）
及び 東京の新しい都市づくりビジョン（平成13年10月））】

墨田区は、「おおむね首都高速中央環状線の内側で、首都を担う東京圏の中心に位置し、我が国の政治・経済・文化の中枢としての役割を果たす」【センターコア再生ゾーン】に含まれている。

その中でも「錦糸町・亀戸」は、新宿、渋谷、池袋、大崎、上野・浅草と並んで、中核拠点【副都心】の１つに位置づけられている。

【副都心】の役割としては、都心に集中する業務機能を分散する時代から、業務だけにとどまらない商業、文化、交流、居住など多様な都市機能の分担・集積と、地域の特性を活かした用途の誘導による、にぎわいと活力のある拠点育成への転換が示されている。

図．センター・コア再生ゾーンの地域像
（「東京の新しい都市づくりビジョン」東京都 平成13年10月　より）

表．センター・コア再生ゾーンの地域像
（「都市計画区域マスタープラン」東京都 平成16年4月　より）

地域	将来像
錦糸町・亀戸 (副都心)	・ 東京東部の業務、商業、産業、文化、娯楽などの機能が集積した拠点を形成 ・ 亀戸天神や両国国技館、江戸東京博物館など周辺の個性的な地域資源を活かし下町文化を発信
墨田	・ 既存の地場産業を活かしながら、高度な先端技術を取り入れた新たな産業の育成を図り、東京の活力を支える地域を形成 ・ 街区再編等により、住工の共存や適正配置を図り、良好な環境を持った定住性の高い職住近接のまちを創造するとともに、営団地下鉄半蔵門線などの整備に合わせた押上・業平橋地区などにおける駅周辺整備を進め、にぎわいあるまちを形成
白鬚・鐘ヶ淵	・ 白鬚東・西地区の防災拠点を中心に、防災性を備えた居住環境の改善を進め、安全で暮らしやすい、住工の調和した複合市街地を形成

③広域交通ネットワーク

【道路ネットワーク】

　都心部に近接する立地から、都心への放射方向及び環状方向に幹線道路が密に通っており、区内に比較的整形のネットワークを形成している。

　放射方向では、千葉方面と都心部との往来に際し、荒川に架かるいくつかの橋梁に交通が集中するため、「水戸街道」「蔵前橋通り」「京葉道路」「新大橋通り」の交通量が特に多くなっている。環状方向では、「三ツ目通り」と「明治通り」という特に交通量の多い道路が南部、北部の中央に１本ずつ通っている。また、隅田川沿いに区内を北へ抜ける「墨堤通り」も比較的交通量が多い。

【鉄道ネットワーク】

　区内には複数の鉄道路線が走っており、都心部との連絡に大きな役割を果たしている。

　放射方向には「ＪＲ総武線」「京成電鉄押上線・都営地下鉄浅草線」「都営地下鉄新宿線」、環状方向には「東武鉄道伊勢崎線・亀戸線」のほか、現行計画策定以降に完成した「都営地下鉄大江戸線」「東京メトロ半蔵門線」が走っている。

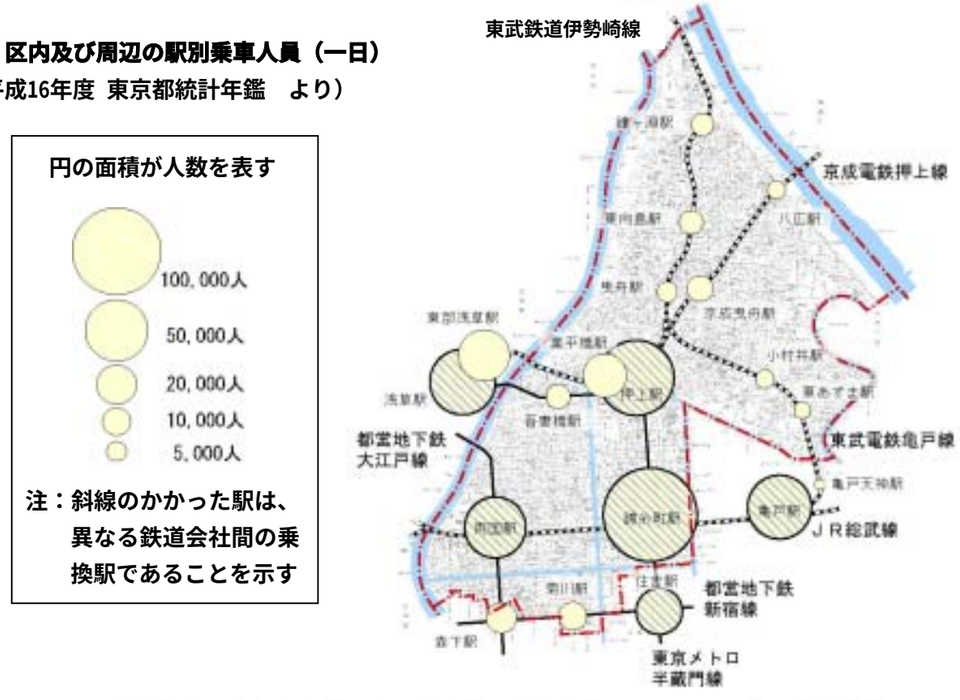
　中でも「ＪＲ総武線」の各駅と、隣接する台東区の「浅草駅」、及び「押上駅」「錦糸町駅」「住吉駅」の各駅で他の路線と接続する「東京メトロ半蔵門線」の乗降客数が多い。また、「都営地下鉄新宿線」では、「東京メトロ半蔵門線」との乗換駅である「住吉駅」だけでなく、「菊川駅」「森下駅」の各駅も一日あたりの乗車人員が１万人を超えており、「ＪＲ総武線」「東京メトロ半蔵門線」に次ぐ乗車人員となっている。

【放射方向が強い広域交通ネットワーク】

　道路ネットワークと鉄道ネットワークを重ねて見てみると、放射方向に１）「水戸街道」と「都営地下鉄浅草線」（及び「京成電鉄押上線」）、２）「蔵前橋通り」「京葉道路」と「ＪＲ総武線」、３）「新大橋通り」と「都営地下鉄新宿線」という目立って交通量の多い３つの組み合わせを捉えることができる。

図．墨田区周辺の主要な道路ネットワークと区内を通る交通量
（H11年道路交通センサス　平日12時間の自動車交通量の結果に基づき作成）

図．区内及び周辺の駅別乗車人員（一日）
（平成16年度 東京都統計年鑑　より）



複数路線の乗り入れ駅である押上駅の乗車人員については、墨田区勢概要2005に掲載された“通過分を除く”乗車人員の数値を採用している

３．区内のまちづくりの動向

①両国駅北口地区の開発

両国駅周辺地区では、江戸東京博物館に続いて、駅北口の開発により国際ファッションセンター、ホテル、オフィス等の複合施設が誕生し、これらを核施設として「広域総合拠点」としての都市機能の集積が図られている。

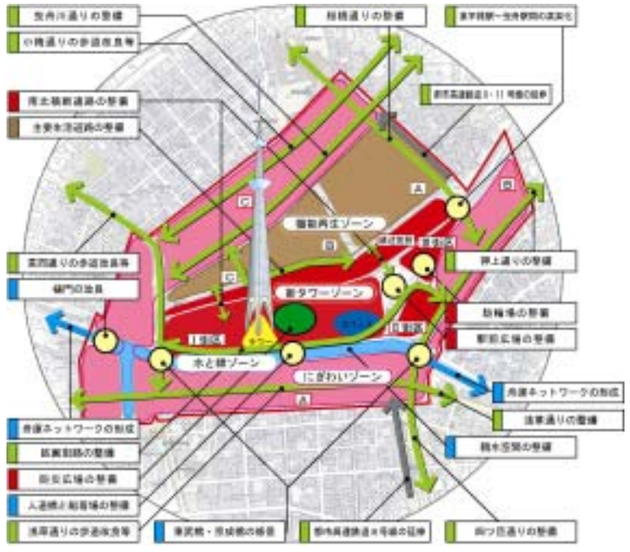
②精工舎跡地開発

錦糸町駅周辺地区では、錦糸公園北側の大規模工場跡地の開発によるショッピングモール、シネマコンプレックス、オフィス、住宅等の複合施設が完成し、「広域総合拠点」にふさわしい、都市機能の充実が図られている。

③新タワーの計画

「広域拠点」として各種の事業が予定されていた「押上・業平橋駅周辺地区」では、平成18年3月31日に新タワーの建設地として決定された。「墨田・台東エリア（押上・業平橋地区）」の選定理由にもあるように、「タワー事業がトリガー※となって、この地区が新たな日本文化（江戸文化）再発見の観光拠点となって行くことは、東京の長期的なまちづくりにとって大きな意味を持つ」ものであり、建設地を含む「押上・業平橋駅周辺地区」及びその周辺市街地の整備イメージが大きく変わってきている。

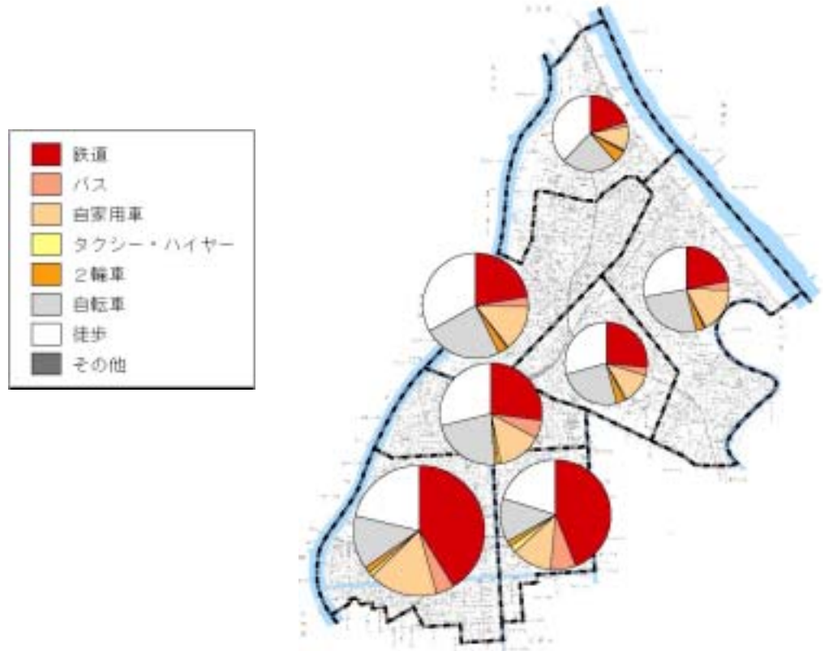
※ トリガー：銃の引き金



図．押上・業平橋駅周辺地区の整備構想
（「まちづくりグランドデザイン」報告書　より）

④曳舟駅前地区の開発

区北部の「広域拠点」として位置づけられる曳舟駅周辺地区では、現行計画の中でも示されている駅前地区の再開発事業が一部スタートし、土地の高度利用と商業・業務・文化・居住機能の集積が図られている。なお、“ 北部地域の拠点 ” という位置づけについては、周辺は、徒歩、自転車によるトリップが多い日常生活圏内の移動を中心とした地区であり、身近なところに高度な都市機能の集積を確保するという意味で、申し分ない立地を得ているものと考えられる。



図．墨田区内ゾーン別代表交通手段別構成比
（「平成11年度東京都市圏パーソントリップ調査」をもとに作成）

⑤都営大江戸線、東京メトロ半蔵門線の開通

「区南北軸」を形成する「東京メトロ半蔵門線」水天宮～押上間の開通、「東武鉄道伊勢崎線」との相互乗り入れが平成15年3月に実現した。平成12年12月には、都営地下鉄大江戸線も開通しており、区内の交通利便性が大きく向上している。

これらの新しい交通路線の駅が整備された南部地域では、都心部への近接性を背景にまち全体の開発ポテンシャルが上がり、区内への人口流入と相まってまちの様子が変化している。

４．将来都市構造の改定案

先の区内のまちづくりの動向の中で、「両国駅北口地区の開発」「精工舎跡地開発」などは現行の将来都市構造に既に反映されているが、「都営大江戸線、東京メトロ半蔵門線の開通」による周辺地区の変化、及び「新タワーの計画」決定という新たな動向を受けて、以下の通り将来都市構造を改定する必要がある。

【新タワーの計画決定による波及効果】

・「押上・業平橋駅周辺地区」では、新タワー建設により観光という大きな地区の核を得るため、広く各地から来訪者を集めるエリアとして捉え直す必要がある。
・「押上・業平橋駅周辺地区」では、新タワーの開発に伴って災害時の情報発信基地など防災の拠点としての顔を持つことになる。
・新タワー建設の波及効果を受ける「吾妻橋地区」では、東京圏屈指の観光エリアである上野・浅草地区と「押上・業平橋駅周辺地区」に挟まれることになり、両地区との連携による観光機能の充実や墨田区の“ゲート”としての役割などが期待される。
・隅田川の水辺を含む「吾妻橋地区」と「両国駅周辺地区」との間のエリアでは、新たな観光ルートの設定など観光を軸とした拠点間の連携が期待される。

【将来都市構造のイメージ】

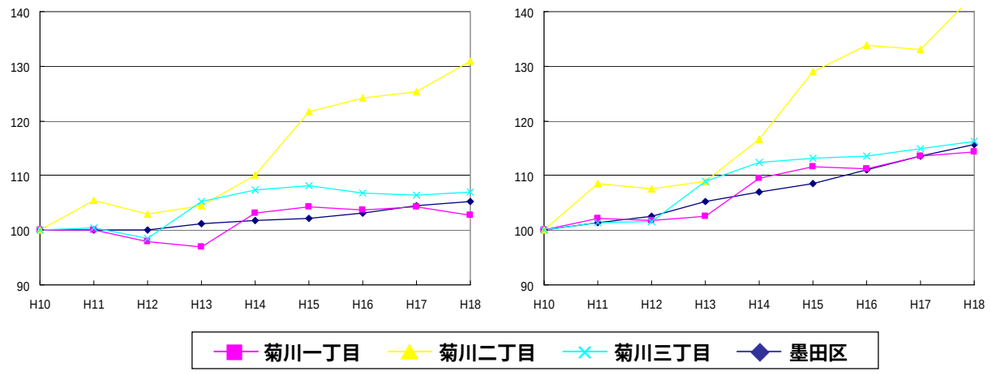
・日本の歴史や文化を代表する観光の拠点である上野・浅草地区と「両国駅周辺地区」、新タワー及び周辺の整備により新しい観光の拠点となった「押上・業平橋駅周辺地区」が「吾妻橋地区」を介して有機的に連携し、世界各国から観光客が訪れる一大観光拠点として成長している。
・交通結節点である「押上・業平橋駅周辺地区」を中心に、南部地域の中心的な拠点である「錦糸町駅周辺地区」と北部地域の中心的な拠点である「曳舟駅周辺地区」の間の交流が一層促進されている。
・区役所など行政的な拠点である「吾妻橋地区」と防災の拠点である「押上・業平橋駅周辺地区」を連携する区中心核軸が名実ともに区の中心として機能している。

①「押上・業平橋駅周辺地区」の「広域総合拠点」への格上げ
②「吾妻橋地区」と「両国駅周辺地区」を連携する「（仮称）隅田川観光軸」の設定

「吾妻橋地区」については、既に「押上・業平橋駅周辺地区」と連携した、区の中心核を形成する広域拠点」との位置づけがあることから、「広域拠点」としての都市構造上の位置づけは変更しないものの、目指すべき方向性に変化が生じている。

【都営地下鉄新宿線、東京メトロ半蔵門線の開通によるポテンシャルの向上】

・菊川二丁目（菊川駅西側）地区では、平成10年からの8年間で30%以上の人口増加が見られるなど鉄道路線整備にともなう開発ポテンシャルの増加にあわせた都市構造の変化が見られる。
・都営地下鉄新宿線の沿線では、現在拠点の位置づけられた地区はないが、人口増加等を背景に、菊川通り商店街などを中心に区民の日常生活に密着した商業やサービス機能の集積を図ることが期待される。

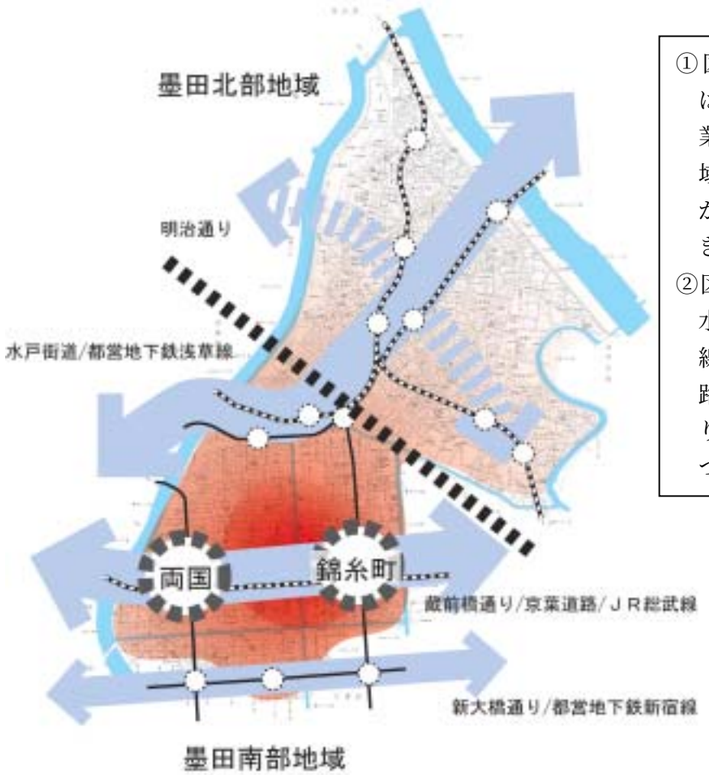


図．菊川駅周辺 及び 墨田区の人口（左）、世帯数（右）
（各年１月の住民基本台帳調査結果をもとに、平成10年の数値を100として作成）

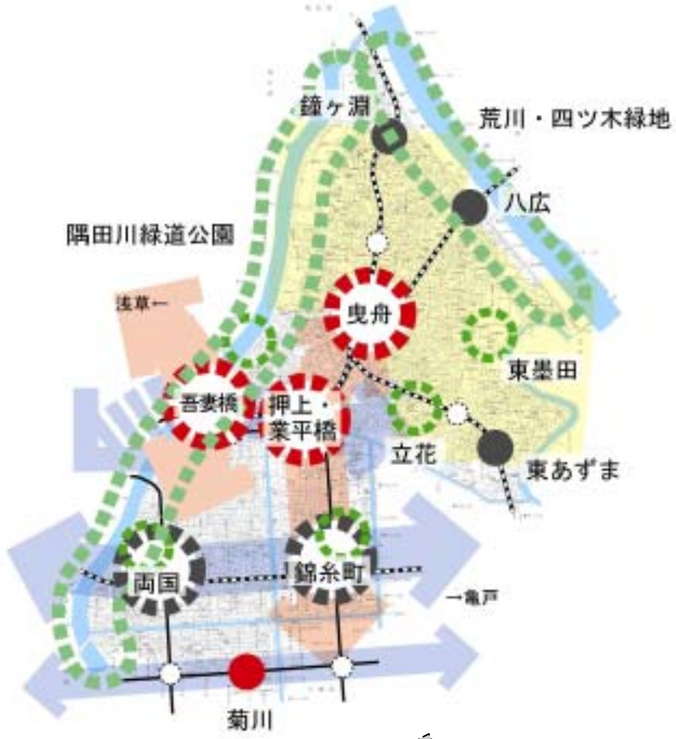
【将来都市構造のイメージ】

・北部地域の各駅と比べて駅利用者の多い都営地下鉄新宿線沿線では、駅周辺の身近な場所に商業やサービス施設が立地することで、通勤などの交通利便性に優れ、日常の買い物にも便利な、コンパクトな生活圏が成立している。

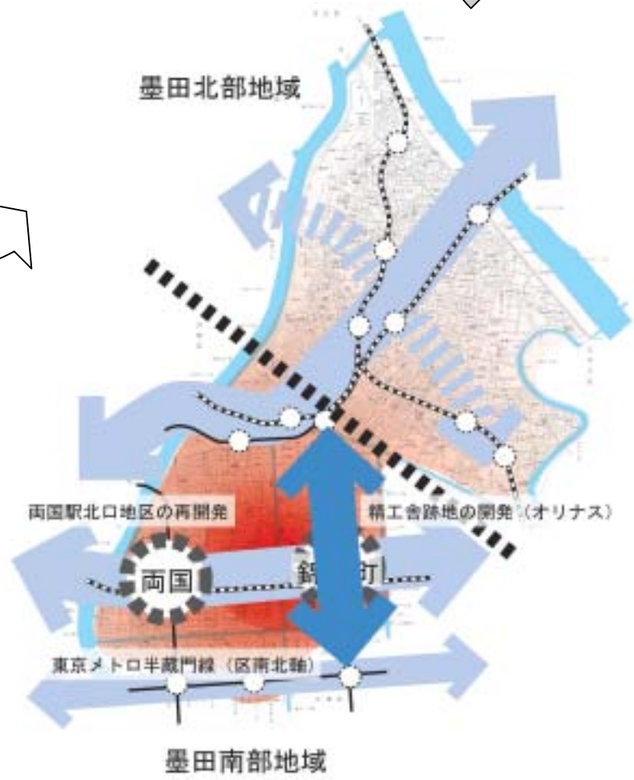
③生活拠点「菊川駅周辺地区」の新設



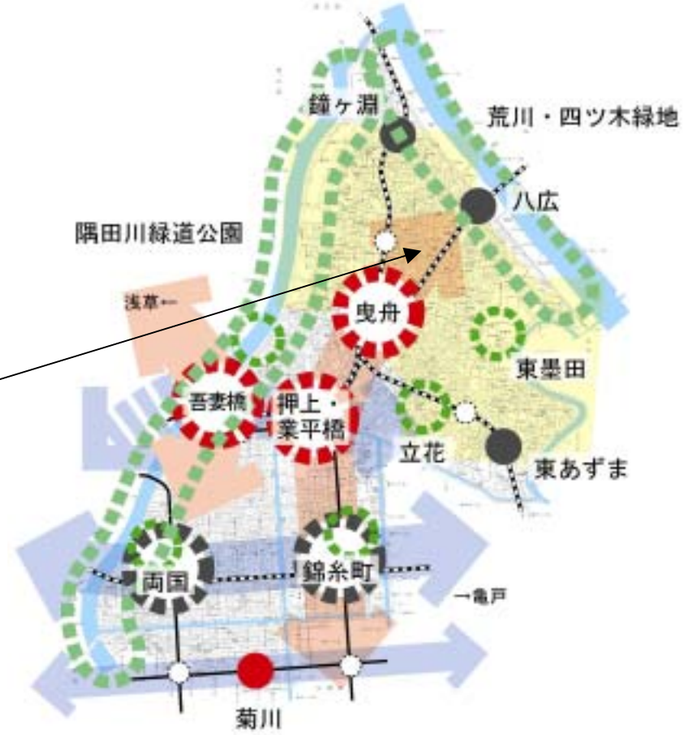
①区内の市街地の成り立ちは、大きく土地区画整理事業により整備された南部地域とスプロール的に市街化が進んだ北部地域に大別できる。
②区内の現況の交通の軸は、水戸街道・都営地下鉄浅草線、蔵前橋通り・京葉道路・ＪＲ総武線、新大橋通り・都営地下鉄新宿線の３つから構成されている。



①押上・業平橋駅周辺地区において、新タワーの建設が決定され、その波及効果を生かすため都市構造への反映が必要となる。
⇒広域拠点から広域総合拠点への位置づけの変更
②新タワーは新たな観光資源となることから浅草や両国などと連携した観光の軸を形成し、区内の回遊性を高める。
⇒新タワー～浅草、浅草～両国、両国～新タワーに新たに観光軸を位置づける
③曳舟駅前地区における開発が進行中であり、北部地域の拠点として、北部地域の日常生活圏内に高度な都市機能の集積が確保される。
④荒川、隅田川は、人びとにうるおいとやすらぎを与え、レクリエーションの拠点となっており、都市構造への位置づけが必要である。
⇒荒川、隅田川をレクリエーションとして新たに位置づける



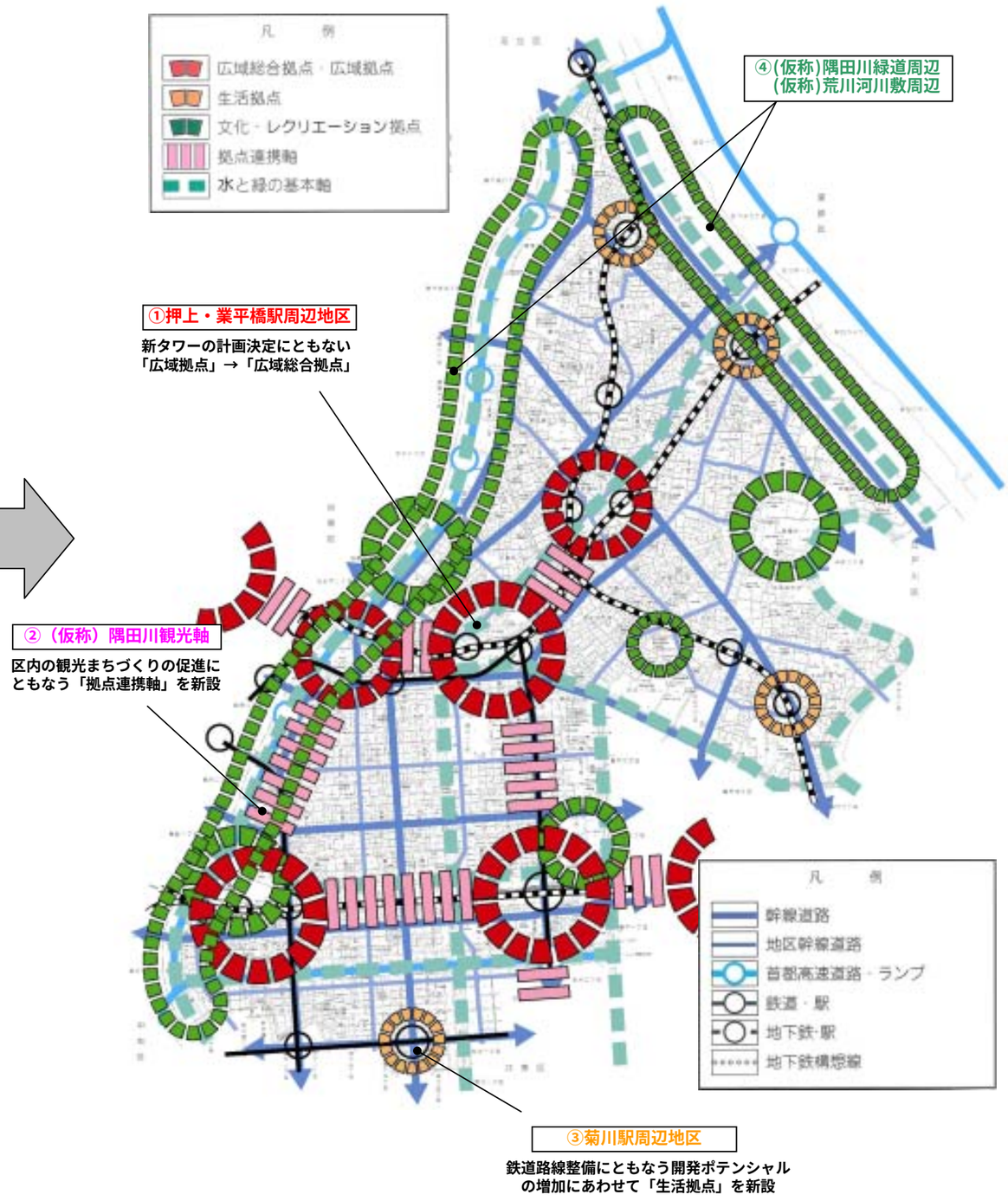
①両国駅北口地区の開発、精工舎跡地の開発が行われ、錦糸町駅周辺、両国駅周辺の拠点性がさらに高まった。
②東京メトロ半蔵門線の開通により、区南北軸が強化された。



①曳舟駅前地区は、北部地域の拠点として、地域内との連携を高めるため、曳舟駅周辺地区と荒川を結ぶ北部地域の軸を形成させる。
○これにより、錦糸町駅周辺地区～押上・業平橋駅周辺地区～曳舟駅周辺地区～荒川を結ぶ区の骨格となる南北軸が形成される。

【現行都市計画マスタープランの将来都市構造（再掲）】

【将来都市構造の改定案】



墨田区都市計画マスタープラン　区民ワークショップについて

平成18年10月17日

Ⅰ　区民ワークショップの概要

１．ワークショップの目的と達成目標

【ワークショップの目的】

区民ワークショップの目的は主に以下の３点を目的とする。

- 区民の方々が抱いている“こんなまちにしたい”“こんなところを改善したい”という意見や提案を都市計画マスタープランの改定に反映すること。
- ワークショップ参加者が今後のまちづくりへ参加するきっかけとすること。
- 区民の生の声を聞き、現行計画の下で取り組んできたまちづくりを評価すること。

【ワークショップの達成目標】

区民ワークショップでは、まちの将来像を検討し、これを文章や図面にまとめることとする。具体の達成目標は以下のとおり。

- まちの課題や可能性を学習し、区民の考える20年後のまちの将来像を参加者自身の言葉で表現すること。
- 描いたまちの将来像を改定検討委員会へ提言すること。

図．図面や言葉によって表現された住民の考え
（左：言葉による表現の例、右：図面による表現の例）

２．全体プログラム

全５回のワークショップでは、居住地を基本としたグループ別に作業を行う。毎回のプログラムの終わりに、グループ毎に検討内容の発表を行って情報の共有を図るため、区役所を会場に合同開催するものとする。各回の内容は以下のとおり。

（1）集まる

【第１回：顔合わせ】

ワークショップの進め方、全体スケジュールなどを説明した後、グループに別れて検討を行う。その後、自己紹介を兼ねて各人が考えるまちの良い点、悪い点、必要なこと、やりたいことなどを自由に発言してもらい意見交換を行う。

第２回に予定するまちあるきのルート設定を目標とする。

（2）知る・発見する

【第２回：まちあるきの実施】（→ニュース等の発行）

地域になじみの薄い参加者もいることが想定されるため、第２回では、前回設定したルートをもとにグループ毎にまちを点検する。気になる箇所をカメラで撮影し、撮影した場所となぜそこが気になるのかを記録しておく。

（3）学ぶ・つくる

【第３回：まちの現状と課題の整理】

まちあるきで集めた情報をもとに、まちの現状を白地図上にまとめる。また、これまでに出された意見や質問に関連するデータや参考資料をもとに、地区の「良さ」「悪さ」をもたらしている要素／パターンをキーワード化して、キーワード間の関連や類似性などについて意見交換を行う（言葉でも地域の現状をまとめておく）。

第４回に向け、「ＳＷＯＴ分析」を用いてその他の要素／パターンを考えてくることを宿題とする。

【第４回：目指すべきイメージの検討】（→ニュース等の発行）

宿題の結果を出席者から発表してもらいながら、第３回でまとめられた地図とキーワードを振り返り、地域の目標するイメージやテーマをまとめる。また、地図についても「良さ」を失いつつあるところや明確に「悪さ」を生じている所などを反映していく。

第５回で作成予定のまとめシートを配布し、それぞれの考える地域の目標イメージ、課題、今後の方針などの検討を宿題とする

（5）まとめる

【第５回：まとめ】

第４回までに出された意見、まとめられた目標などを１つの提案としてまとめる作業を行う。

３．ワークショップの参加者

区内の各地から集まった以下の総勢35名でスタートする。

- 公募区民：広報、ホームページ等の募集により集まった参加者（11名）
- 団体推薦：区内まちづくり組織、その他団体の関係者（16名）
- その他　：基本計画策定のためのワークショップの参加者（8名）

４．グループ分けの考え方

参加者の居住地や現行計画の地域区分をもとにＡ～Ｄの４グループを設定する。

Ａグループ：荒川沿いの墨田地区、八広地区に堤通地区、東向島地区の一部を加えた、おおむね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア

⇒隅田川と白鬚東地区の防災団地、荒川と荒川沿いの住工混在地区に囲まれて、木造密集市街地が広がるエリアである。一部の幹線通り沿道でマンション開発も見られるが、全体的に人口は減少傾向を示している。

Ｂグループ：東向島・向島、京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟、押上・業平橋といった大規模開発が並んだ、区の中央部に位置するエリア

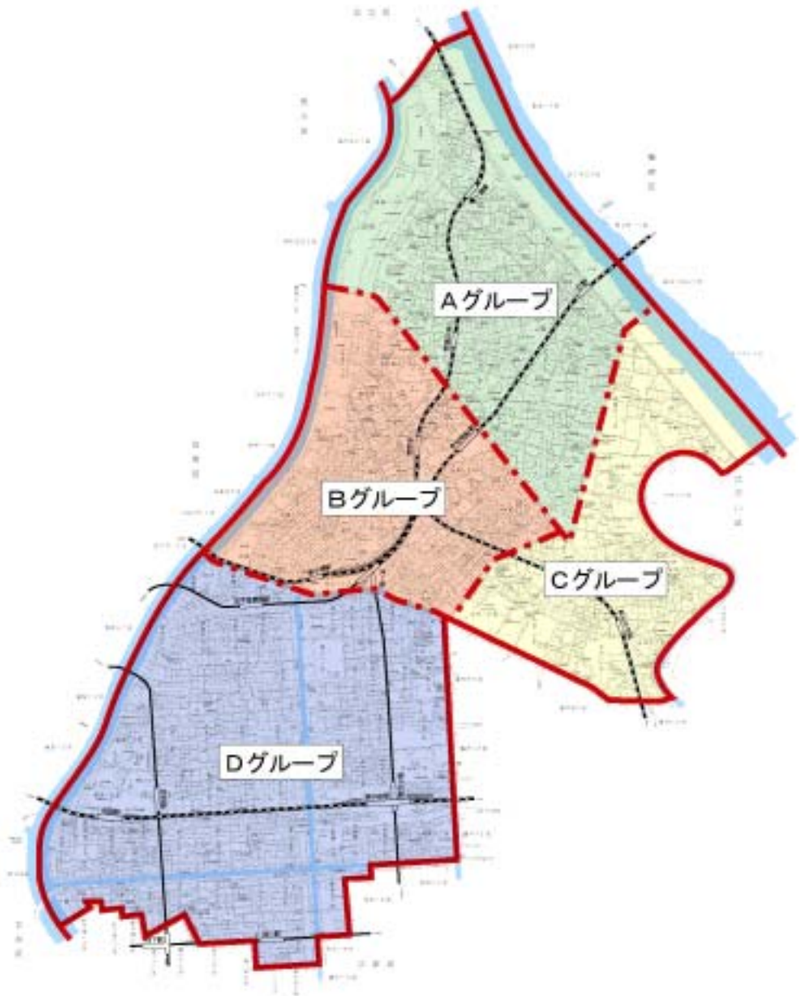
⇒土地区画整理事業の行われた箇所と木造密集市街地とが出会うエリアである。東向島、向島、京島といった地区では従来から熱心なまちづくり活動が行われており、曳舟駅周辺、押上・業平橋駅周辺では新たに大規模開発が実施もしくは予定されている。水戸街道の周辺では人口の増加傾向が見られる。

Ｃグループ：小村井、東あずまの２駅を中心に広がる立花、文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア

⇒旧中川、北十間川を挟んで、平井駅（江戸川区）、亀戸駅（江東区）と近接し、大規模な公営住宅団地や中小企業センター、墨田清掃工場、スポーツ健康センターなどの公共施設が見られる。大規模マンションが完成した文花３丁目を除き、目立った人口の増減は見られない。東墨田地区は区内で唯一の工業地域の指定がなされている。

Ｄグループ：南部地域と称される概ね北十間川以南のエリア

⇒土地区画整理事業により道路や区画の整えられたエリアである。他のエリアと比較して不燃化率が高く、中高層の建物を中心とした街並みを形成している。近年では、恵まれた公共交通網などを背景に人口増加の目立つ地区が多い。



図．住民ワークショップの４グループ
（ただし、地域を分割する点線は、緩やかな境界を表す）

Ⅱ　第１回ワークショップのプログラム

１．概要

【日　　時】１０月　　日（　）１９：００～
【所要時間】１２０分
【会　　場】墨田区役所１３Ｆ

２．主な作業内容

【まちあるきのルート設定】

グループ毎にまちの地図を囲んで、第２回ワークショップで歩くルートマップを作成する。

- まずは自己紹介を行い、参加者のお住まいなどの話を聞きながら、まちを眺め始める。
- まちの魅力や問題点などの意見を付箋もしくは地図に直接ペンで書き込んで現在のまちの状況を確認しながら、まちあるきにふさわしいルートを検討する。
- ルートの設定にあたっては、まちの事情に詳しい人が皆に紹介したい地点をつないだルート、参加者から良い場所、悪い場所として指摘のあった地点をつないだルート、または誰も知らない場所を巡るルートなどいくつかのパターンが想定される。

「地図を見ながら話し合って」

「ルートを決めて」

「まちへ」

３．その他の作業内容

【意見シートの提出】

- 「新タワー」や「隅田川」など全区スケールで検討するべき内容に関する意見を収集する
- ほかのグループの発表に対する意見や感想を収集する
- その他、参加者の意見や質問を収集する

【第１回ワークショップ　式次第（案）】

墨田区都市計画マスタープラン
第１回区民ワークショップ

◇日　時　　平成18年10月　　日（　）19：00～21：00

◇場　所　　墨田区役所１３Ｆ

◇次　第

１．ごあいさつ（5min）

２．資料の説明（15min）

- 都市計画マスタープランとは
- ワークショップとは
- ワークショップのプログラムとスケジュール

３．本日の作業内容の説明（10min）

４．グループ別討議（60min）

- 自己紹介
- 地域の良いところ／悪いところ
- まちあるきのコース設定

５．まとめ（30min）

- グループ別の討議内容の発表
- 閉会挨拶

以　上

アンケート調査結果の概要

（単純集計）

－目　次－

アンケート調査の概要 …… 1
Ⅰ　一般区民アンケート …… 2
Ⅱ　事業所アンケート …… 18
Ⅲ　商店主アンケート …… 26
Ⅳ　中学生アンケート …… 36
Ⅴ　小学生アンケート …… 41

平成 18 年 10 月 17 日

アンケート調査の概要

１．アンケートの目的

○「墨田区都市計画マスタープラン」の改定にあたり、区民が「これまでの区のまちづくりに対する取り組みについてどのように評価しているか」、また、「将来のまちのイメージや新しく計画に反映すべきテーマ等についてどのように考えているか」等の意向把握を目的に実施。

２．対象者

○一般区民、事業所、商店主を対象として実施

・一般区民アンケート　住民基本台帳から、20 歳以上の区民の中から、年齢、地域の偏りがないように 3,000 人を無作為に抽出

・事業所アンケート　産業経済課の企業公開データから、1,000 事業所を無作為に抽出。

・商店主アンケート　墨田区商店街連合会の協力を得て、会員名簿から 1,000 商店を無作為に抽出

３．調査方法

○配 布 日：平成 18 年 8 月 16 日
○回収期限：平成 18 年 8 月 31 日
○配　　布：郵送配布
○回　　収：配布時に回収用封筒を同封し、郵送（料金受取人払）により回収

【配布・回収結果】

	配布数 <a>	対象外（転居・廃業等） <b>	有効対象数 <c=a-b>	有効回収数 <d>	回収率 <e=d/c>
一般区民アンケート	3,000	22	2,978	819	27.5%
事業所アンケート	1,000	20	980	403	41.1%
商店主アンケート	1,000	12	988	364	36.8%
合計	5,000	54	4,946	1,586	36.4%

	配布数 <a>	回収数 <b>	回収率 <c=b/a>
小学生（５年生）	869	753	86.7%
中学生（２年生）	864	744	86.1%
合計	1,733	1,497	86.4%

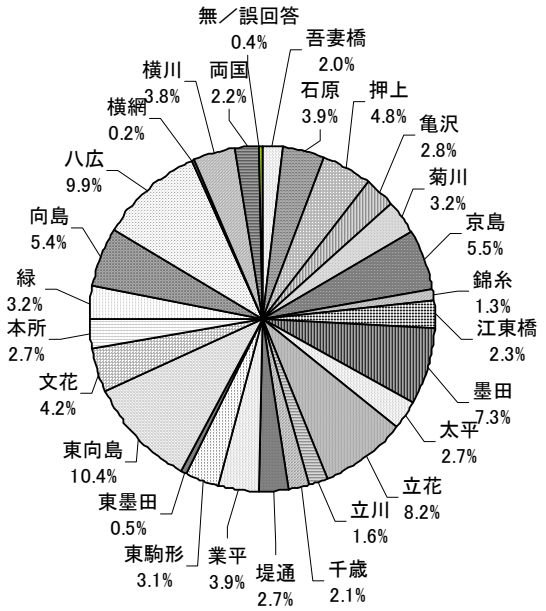
Ⅰ　一般区民アンケート

１．回答者の属性

（１）居住地

「東向島」が10.4%、「八広が」9.9%、「立花」が8.2%の順であり、墨田区の町丁目別人口の割合とほぼ同様の結果となっている。

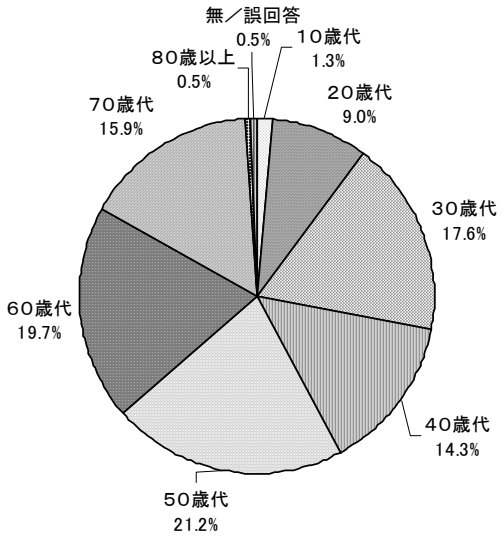
問１－１　お住まいの地域の番号を下の枠の中から選び、何丁目にお住まいか数字でご記入ください。



（２）回答者の年齢層

「50歳代」が21.2%で最も多く、「60歳代」が19.7%、「70歳代」が15.9%となっており、熟年層の回答者が過半数を占めている。

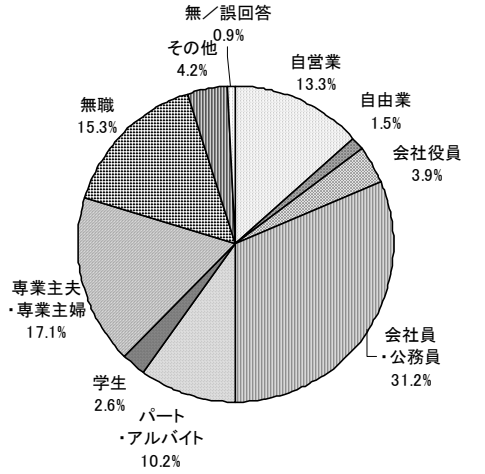
問１－２　あなたの年齢について、次の中から選び○をつけてください。



（３）回答者の職業

「会社員・公務員」が31.2%で最も多く、以下「専業主夫・専業主婦」17.1%、「無職」15.3%の順となっている。

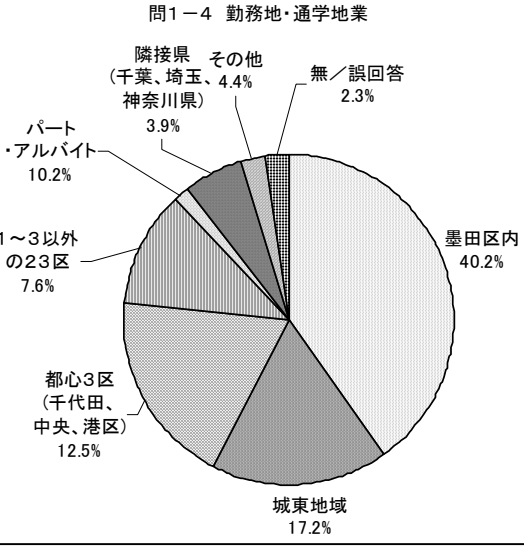
問１－３　あなたの職業について、次の中から選び○をつけてください。



（４）通勤・通学地

「墨田区内」が40.2%で最も多く、隣接する台東区、江東区等の「城東地域」が17.2%、「都心３区」が12.5%の順となっており、職住近接の就業形態の人が多くなっている。

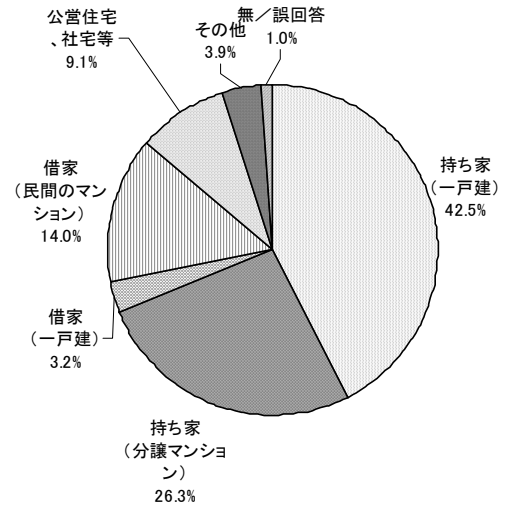
問１－４　あなたの勤務地・通学地について、次の中から１つ選び○をつけてください。



（５）住んでいる住宅の種類

「持ち家（一戸建）」が42.5%で最も多く、「持ち家（分譲マンション）」が26.3%であり、持ち家に住んでいる人が７割近くを占める。

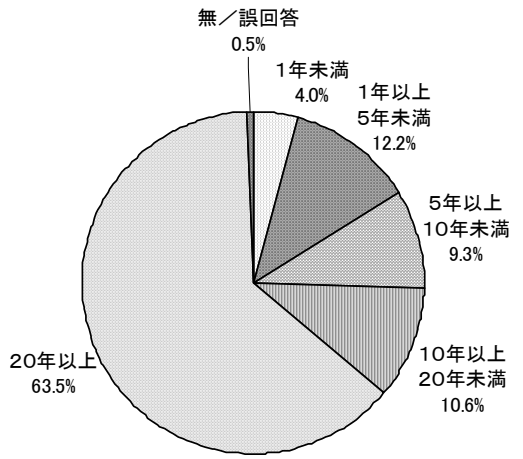
問１－５　お住まいの住宅の種類について、次の中から１つ選び○をつけてください。



（６）居住年数

「20年以上」が63.5%、「１年以上５年未満」が12.2%であり、居住年数の長い人が多くなっている。

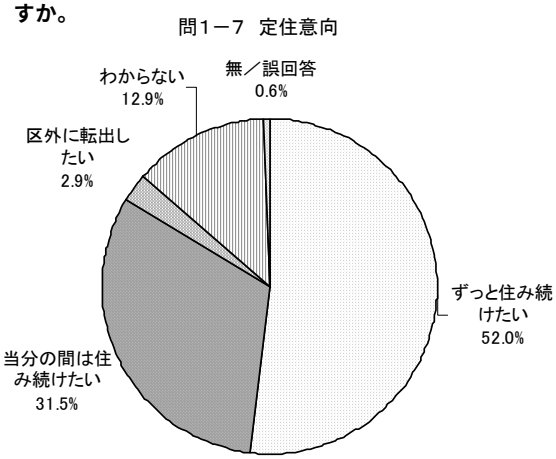
問１－６　墨田区での居住年数について、次の中から選び○をつけてください。



（７）定住意向

「ずっと住み続けたい」が52.0%、「当分の間は住み続けたい」が31.5%であり、８割以上の人が「住み続けたい」と意向を示している。

問１－７　これからも墨田区に住み続けたいと思いますか。



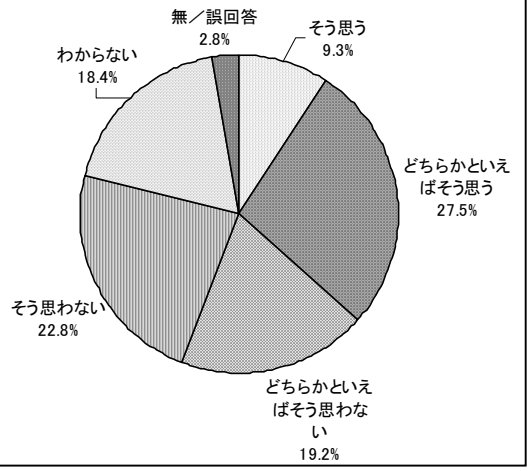
２．都市像の評価について

（1）「都市像１　災害に強い防災のまち」に対する評価について

１）防災への取り組みについて

「そう思う」(9.3%)、「どちらかといえばそう思う」(27.5%）と評価する人が約37%であるのに対し、「そう思わない」(22.8%)、「どちらかといえばそう思わない」(19.2%)で評価していない人が約42%であり、**防災に対する取り組みの評価は２分されている。**

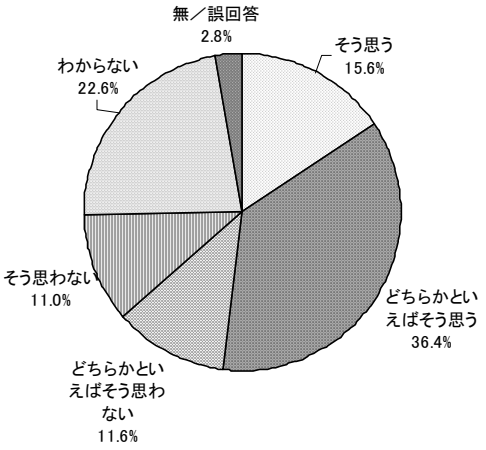
問２－１①　建物の不燃化やオープンスペースの確保、生活道路の整備など防災への取り組みが進んだ。



２）堤防の耐震化・下水処理機能について

「そう思う」(15.6%)、「どちらかといえばそう思う」(36.4%）と評価する人が約52%、「そう思わない」(11.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(11.6%）と評価していない人が約23%であり、**堤防の耐震化・下水処理機能については、評価する人が評価していない人を上回っている。**

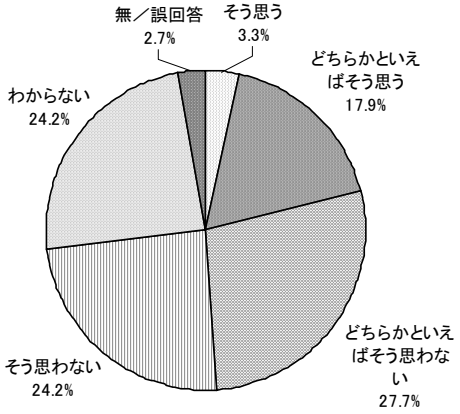
問２－１②　河川の堤防の耐震化や公共下水道の雨水処理機能が向上したか。



３）避難地や避難路沿道の不燃化について

「そう思う」(3.3%)、「どちらかといえばそう思う」(17.9%）と評価する人が約21%、「そう思わない」(24.2%)、「どちらかといえばそう思わない」(27.7%）と評価していない人が約52%であり、**避難地や避難路沿道の不燃化については、評価していない人が評価する人を上回っている。**

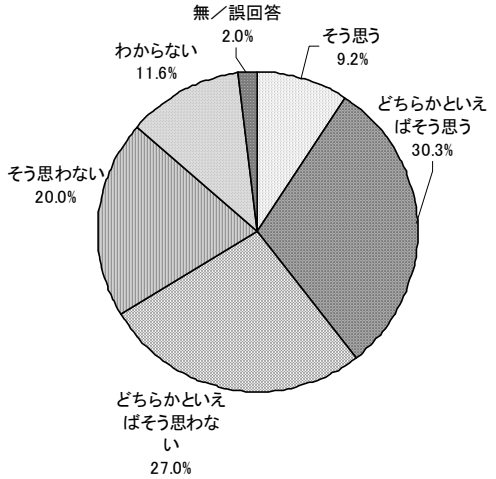
問２－１③　避難地や避難路沿道の不燃化が進み、安心して避難できるようになった。



４）防犯性について

「そう思う」（9.2%）、「どちらかといえばそう思う」（30.3%）と評価する人が約40%、「そう思わない」（27.0%）、「どちらかといえばそう思わない」（20.0%）と評価していない人が約47%であり、**まちの防犯性に対する評価は２分**されている。

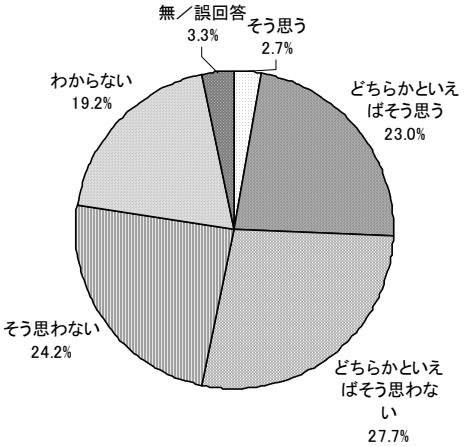
問２－１④　防犯灯の整備など、夜間でも安心して歩けるまちになり、防犯性が向上した。



５）総合的にみた防災性について

「そう思う」（2.7%）、「どちらかといえばそう思う」（23.0%）と評価する人が約26%、「そう思わない」（27.7%）、「どちらかといえばそう思わない」（24.2%）と評価していない人が約52%であり、**総合的にみた防災性については、評価していない人が評価する人を上回り、災害に対する取り組みを進めていくことが必要**であると考えられる。

問２－１⑤　総合的にみて「災害に強い防災のまち」が実現した。

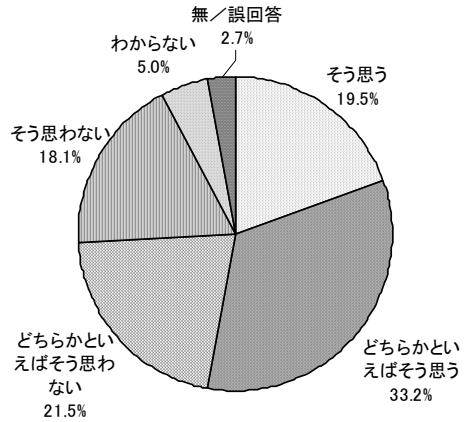


（2）「都市像２　快適に暮らせる魅力あるまち」に対する評価について

１）日常生活の利便性について

「そう思う」(19.5%)、「どちらかといえばそう思う」(33.2%）と評価する人が約53%、「そう思わない」(18.1%)、「どちらかといえばそう思わない」(21.5%）と評価していない人が約40%で、**評価する人が過半数**を占めており、コンビニエンスストアなど気軽に買い物できる商店の進出が影響していると考えられる。

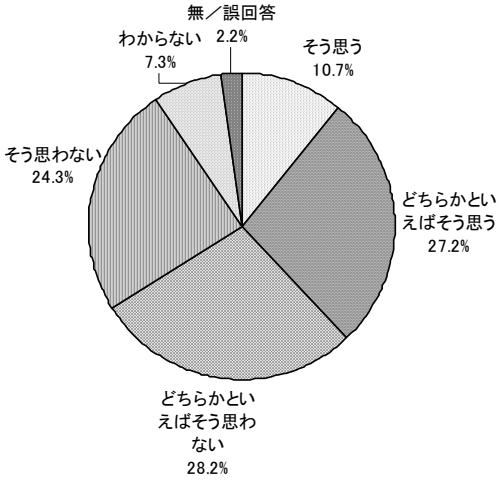
問２－２①　歩ける範囲に日常生活に便利な施設が増えた。



２）バリアフリーについて

「そう思う」(10.7%)、「どちらかといえばそう思う」(27.2%）と評価する人が約38%、「そう思わない」(24.3%)、「どちらかといえばそう思わない」(26.2%）と評価していない人が約50%で、**評価していない人が過半数**を占めており、歩道の段差解消等を進めていく必要があると考えられる。

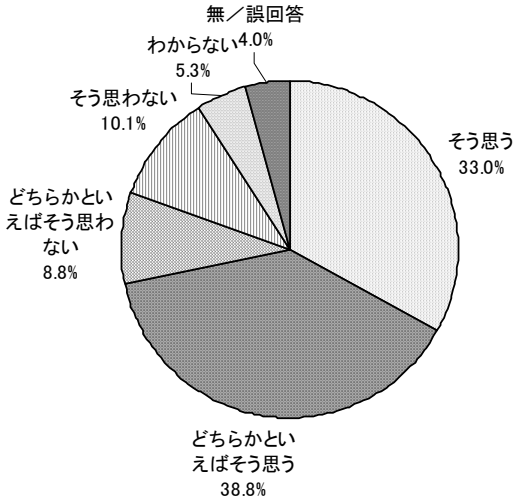
問２－２②　歩道の段差解消などが進められ、歩きやすい道路が増えた。



３）通勤・通学の利便性について

「そう思う」(33.0%)、「どちらかといえばそう思う」(38.8%）と評価する人が約72%、「そう思わない」(10.1%)、「どちらかといえばそう思わない」(8.8%）と評価していない人が約19%で、**評価している人が７割以上**を占め、地下鉄大江戸線、半蔵門線の整備が大きく影響しているといえる。

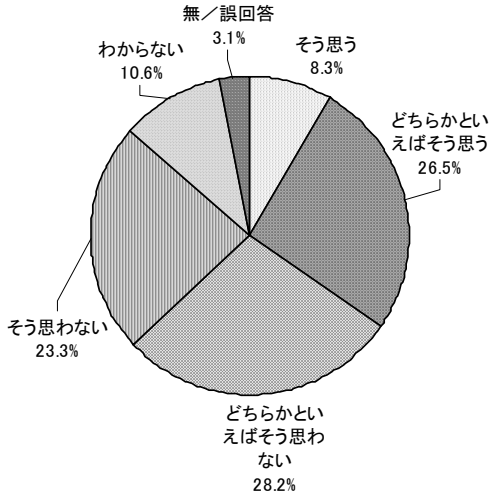
問２－２③　地下鉄が整備され、通勤・通学が便利になった。



４）公園や遊び場について

「そう思う」（8.3%）、「どちらかといえばそう思う」（26.5%）と評価する人が約35%、「そう思わない」（23.3%）、「どちらかといえばそう思わない」（28.2%）と評価していない人が約52%で、**評価していない人が過半数**を占め、うるおいややすらぎの空間の整備が望まれていることがわかる。

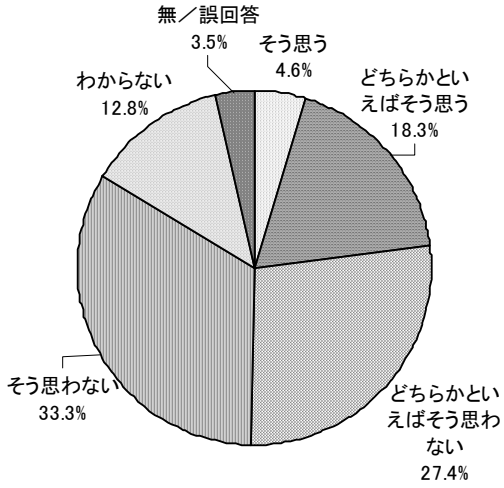
問２－２④　公園などの遊び場やみどり・水とふれあう場所が増えた。



５）街並みについて

「そう思う」（4.6%）、「どちらかといえばそう思う」（18.3%）と評価する人が約23%、「そう思わない」（33.3%）、「どちらかといえばそう思わない」（27.4%）と評価していない人が約60%で、**評価していない人が過半数**を占めており、電線の地中化などによるきれいな街並みが望まれていることがわかる。

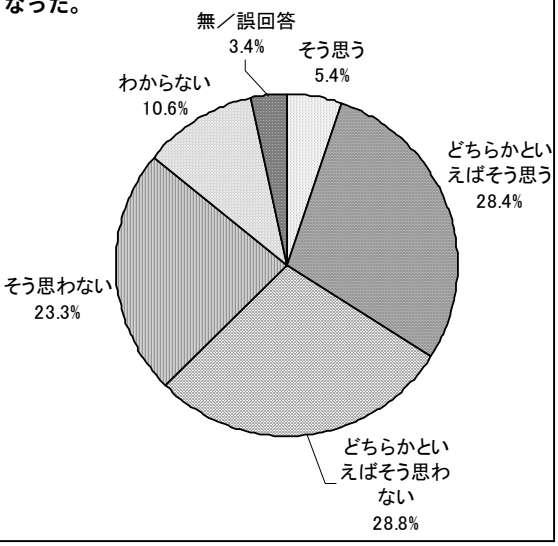
問２－２⑤　電線の地中化などが進み、街並みがきれいになった。



６）歴史や文化について

「そう思う」（5.4%）、「どちらかといえばそう思う」（28.4%）と評価する人が約34%、「そう思わない」（28.8%）、「どちらかといえばそう思わない」（23.3%）と評価していない人が約52%で、**評価していない人が過半数**を占めており、墨田区の財産ともいえる歴史・文化をいかしたまちづくりを進めていくことが必要であると考えられる。

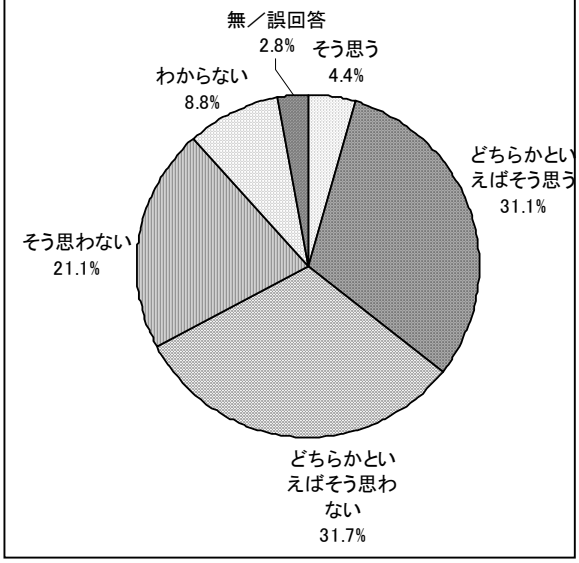
問２－２⑥　墨田区の歴史や文化を感じられるまちになった。



７）総合的にみた「快適にくらせる魅力あるまち」の実現について

「そう思う」（4.4%）、「どちらかといえばそう思う」（31.1%）と評価する人が約36%、「そう思わない」（21.1%）、「どちらかといえばそう思わない」（31.7%）と評価していない人が約53%で、**評価していない人が過半数**を占めており、快適な暮らし、魅力あるまちの実現に向けた取り組みが必要となっている。

問２－２⑦　総合的にみて「快適に暮らせる魅力あるまち」が実現した。

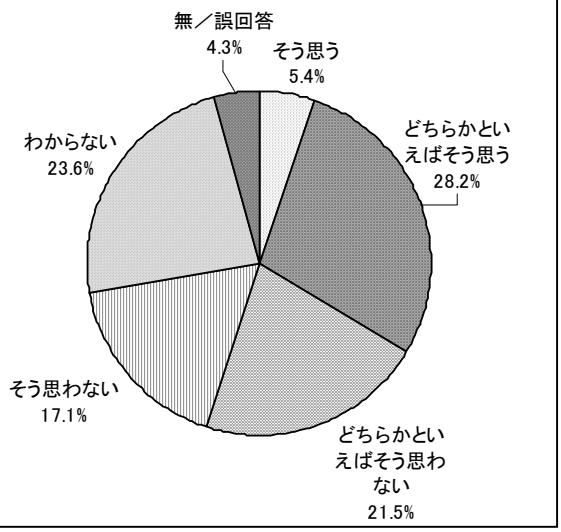


（２）「都市像３　活力ある産業のまち」に対する評価について

１）町工場等の環境対策について

「そう思う」（5.4%）、「どちらかといえばそう思う」（28.2%）と評価する人が約34%、「そう思わない」（17.1%）、「どちらかといえばそう思わない」（21.5%）と評価していない人が約39%で、**評価は２分**しており、住工混在のまちとしての特徴を活かしながら、必要な環境対策を進めていく必要があると考えられる。

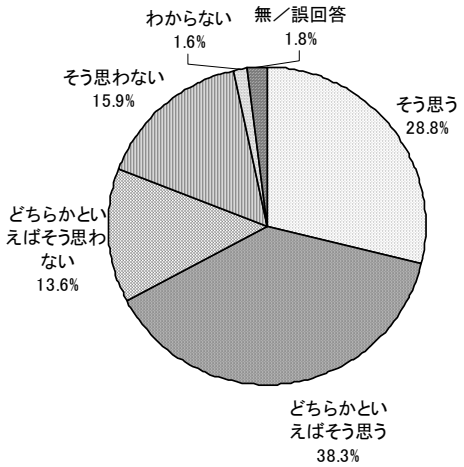
問２－３①　町工場の防音対策など環境改善が進んだ。



２）買い物の便利さについて

「そう思う」(28.8%)、「どちらかといえばそう思う」(38.3%）と評価する人が約67%、「そう思わない」(15.9%)、「どちらかといえばそう思わない」(13.6%）と評価していない人が約29%で、**評価している人が過半数**を占めている。「都市像２　快適に暮らせる魅力あるまち」の評価の中で「日常生活の利便性」の評価が高いことから、買い物をはじめとする生活の利便性は向上したと考えられる。

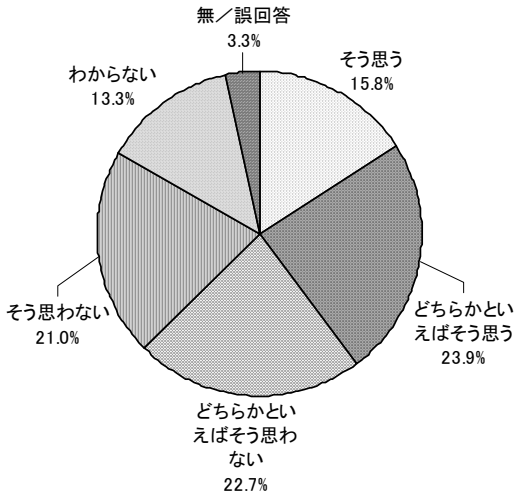
問２－３②　スーパーやコンビニなどの商店が増え、買い物が便利になった。



３）大規模商業施設の立地による区外からの買い物客の増加について

「そう思う」(15.8%)、「どちらかといえばそう思う」(23.9%）と評価する人が約40%、「そう思わない」(21.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(22.7%）と評価していない人が約44%で、**評価は２分されている。**

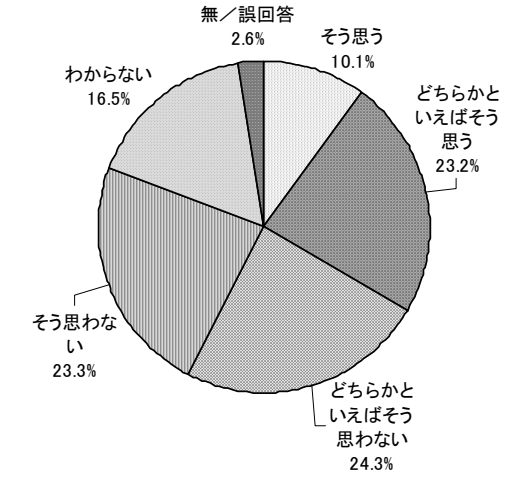
問２－３③　大規模な商業施設の立地が進み、区外からの買い物客が増えた。



４）オフィスビルの増加について

「そう思う」(10.1%)、「どちらかといえばそう思う」(23.2%）と評価する人が約32%、「そう思わない」(23.3%)、「どちらかといえばそう思わない」(24.3%)と評価していない人が約48%で、**評価していない人の割合が高く**なっており、業務施設の立地によるビジネスマンの増加はあまり意識されていない。

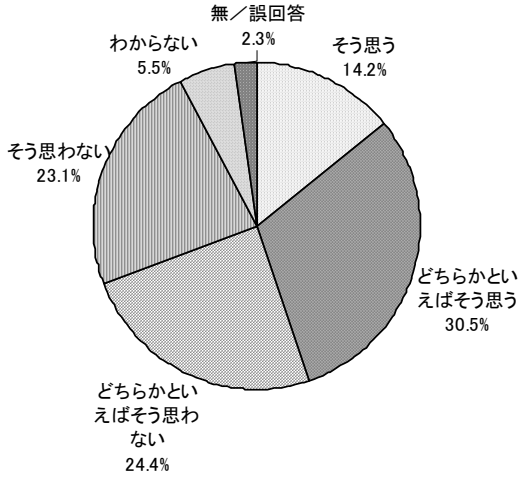
問２－３⑤　駅前などにおいて再開発が進み、賑わいのあるまちになった。



５）にぎわいのあるまちについて

「そう思う」(14.2%)、「どちらかといえばそう思う」(30.5%) と評価する人が約45%、「そう思わない」(23.3%)、「どちらかといえばそう思わない」(24.3%)と評価していない人が約48%で、**評価は２分**されている。

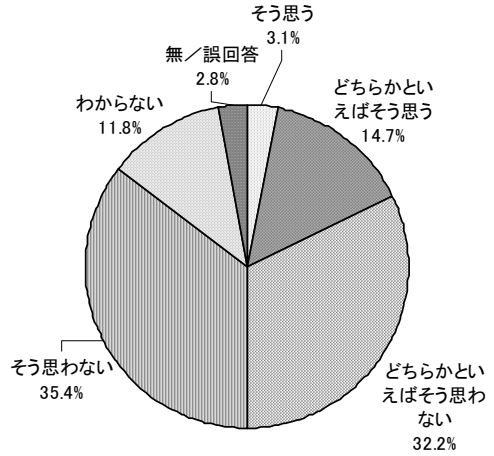
問２－３⑤　駅前などにおいて再開発が進み、賑わいのあるまちになった。



６）活気のあるまちについて

「そう思う」(3.1%)、「どちらかといえばそう思う」(14.7%) と評価する人が約19%、「そう思わない」(35.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(32.2%)と評価していない人が約68%で、**評していない人が７割近く**を占めている。新タワーの建設により、浅草との連携強化などを進め、波及効果をいかし、観光のまちとしてのイメージを高めていく必要があると考えられる。

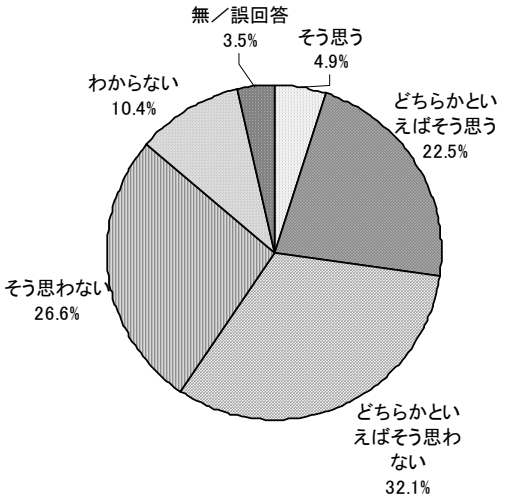
問２－３⑥　観光客が訪れる活気のあるまちになった。



７）総合的にみて「活力ある産業のまち」が実現について

「そう思う」(4.9%)、「どちらかといえばそう思う」(22.5%) と評価する人が約27%、「そう思わない」(26.6%)、「どちらかといえばそう思わない」(32.1%)と評価していない人が約59%で、**評していない人が６割近く**を占めている。住商工が混在する産業のまちとして発展してきたまちであり、観光など新たな産業とあわせまちの活力源となる商業、工業等の振興をまちづくりの観点から考えていく必要がある。

問２－３⑦　総合的にみて「活力ある産業のまち」が実現した。



３．墨田区のまちの将来イメージについて

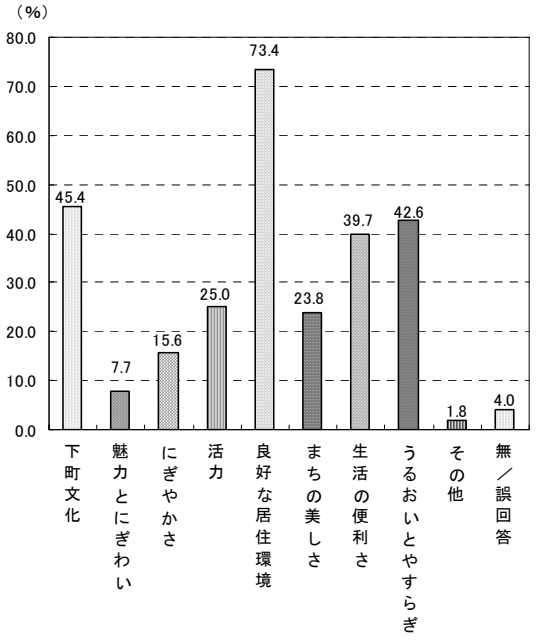
「良好な居住環境」が 73.4%で最も多く、ついで、「下町文化」（45.4%）、「うるおいとやすらぎ」（42.6%）、「生活の便利さ」（39.7%）の順となっている。

墨田区は住商工混在のまちであるが、居住をテーマにする意見が多く、伝**統や歴史、水や緑などを取り入れた生活主体のテーマ**設定が求められている。

「にぎやかさ」、「活力」といった商業や工業をまちづくりのテーマにすることはあまり求められていない。

～都市像検討のキーワード～
「下町」、「便利」、「安全」、「うるおい」、「やすらぎ」

問３－１　墨田区の将来のまちづくりを考えていく上で、どのようなことをテーマにするべきだとお考えになりますか。



４．将来イメージの達成に取り組むべきこと

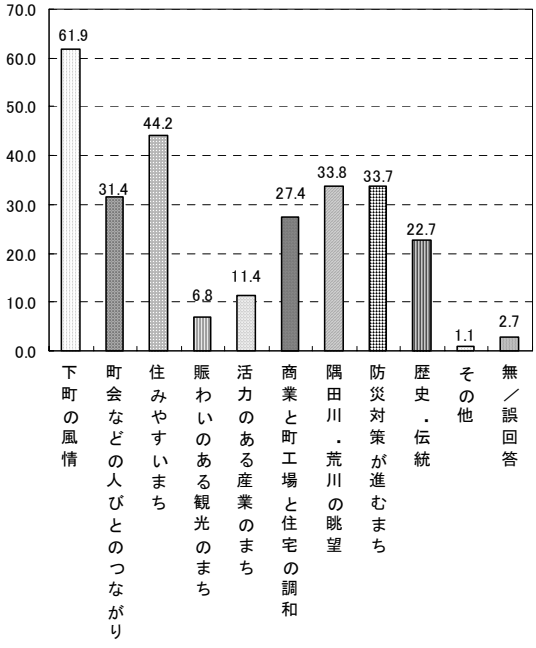
（１）「すみだらしさ」について

「下町の風情」が61.9%で最も多く、次いで「住みやすいまち」（44.2%）、「隅田川・荒川の眺望」(33.8%)、「防災対策が進むまち」(33.7%)、「町会などの人びとのつながり」（31.4%）、「商業と町工場と住宅の調和」（27.4%）の順となっている。

将来イメージとして「良好な居住環境」と解答した人は、「下町の風情」が「下町らしさ」と考えている。(問３－１と問４－１のクロス集計結果)

～都市像検討のキーワード～
「下町」、「便利」、「安全」、「うるおい」、「やすらぎ」、「調和」

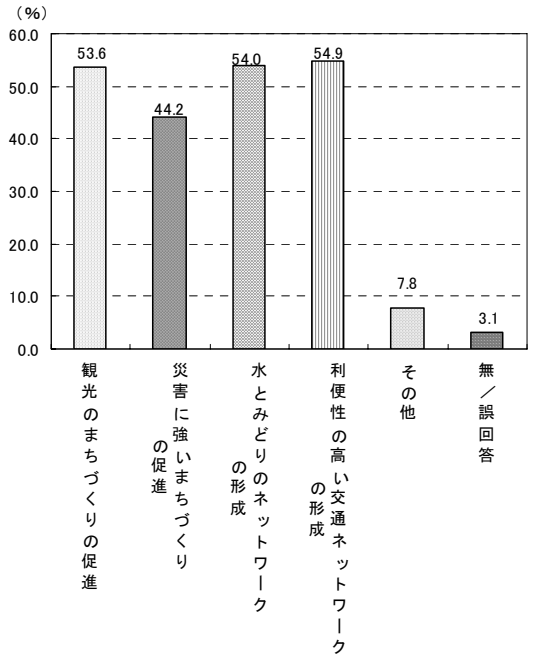
問４－１　「すみだらしさ」のイメージを一言でいうとどのようなことを思い浮かべますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。



（２）新タワーについて

押上・業平橋駅地区建設が決まった新タワーのまちづくりへの活用について、「利便性の高い交通ネットワークの形成」が54.9%、「水と緑のネットワークの形成」が54.0%、「観光のまちづくりの促進」が53.6%であり、**新タワーの波及効果をまちづくりに積極的に活用**していくことが望まれている。

問４－２　今後新タワーをまちづくりにどのように活かしていくべきだとお考えになりますか。該当するものを該当するものをすべて選び○をつけてください。

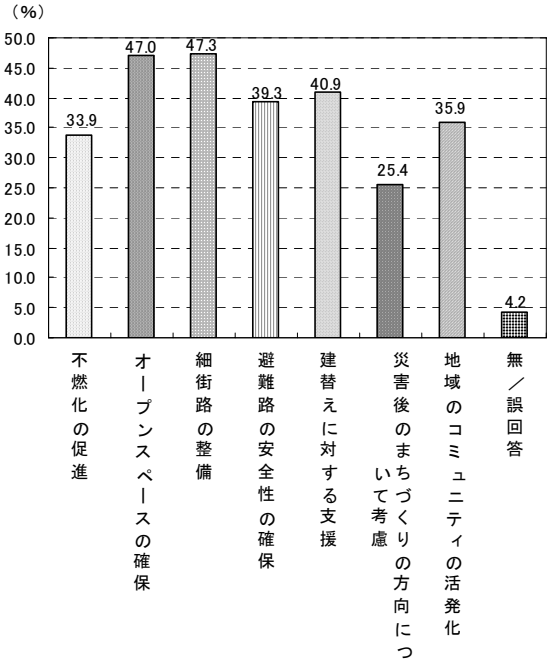


（３）防災について

防災に強いまちづくりを進めていくために重要なこととして、「細街路の整備」が47.3%、「オープンスペースの確保」が47.0%であり、**延焼防止、避難経路の確保**に対する意見が多い。

また、「建替えに対する支援」（40.9%）、「地域のコミュニティの活発化」（35.9%）といったソフトの対策も求められている。

問４－３　災害に強いまちづくりを進めていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。

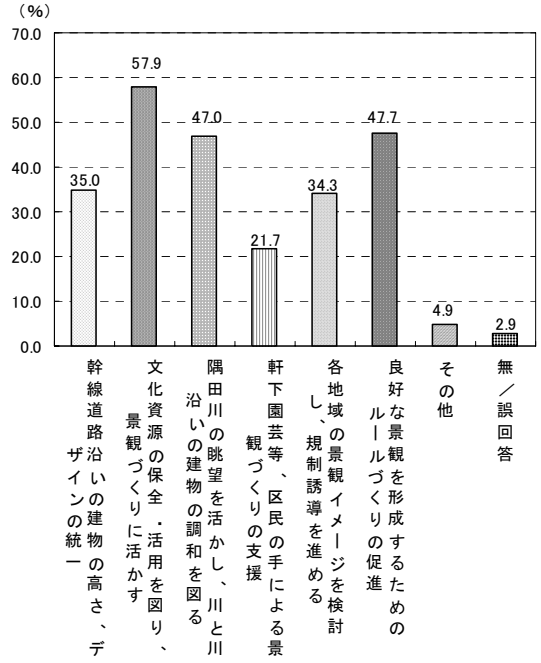


（４）景観について

良好な景観づくりを進めていくために重要なこととして、「文化資源の保全・活用を図り、景観づくりに活かす」が57.9%で最も多く、「良好な景観を形成するためのルールづくりの促進」が47.7%、「隅田川の眺望を活かし、川と川沿いの建物の調和を図る」が47.0%となっている。

墨田区**固有の資源を活かしながら、適切なルールや基準に基づいた景観づくり**を進めてくことが求められている。

問４－４　墨田区の良好な景観づくりを進めていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。



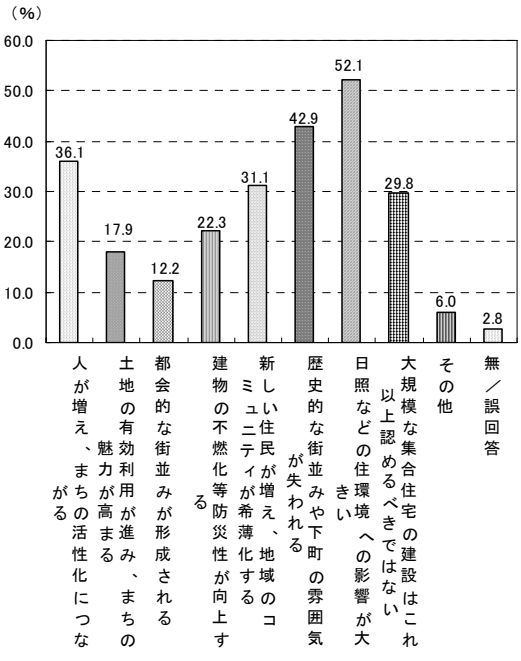
（５）住環境について

１）中高層のマンションについて

中高層マンションに対する考えとして、「日照などの住環境への影響が大きい」52.1%、「歴史的な街並みや下町の雰囲気が失われる」42.9%、「人が増え、まちの活性化につながる」36.1%の順に多くなっている。

全体的に、**人口増加やまちの活性化、防災性の向上といったプラスの考えよりも街並みや住環境への影響、コミュニティの希薄化などを危惧する意見**が多くなっており、「大規模な集合住宅の建設はこれ以上認めるべきではない」という意見も29.8%みられる。

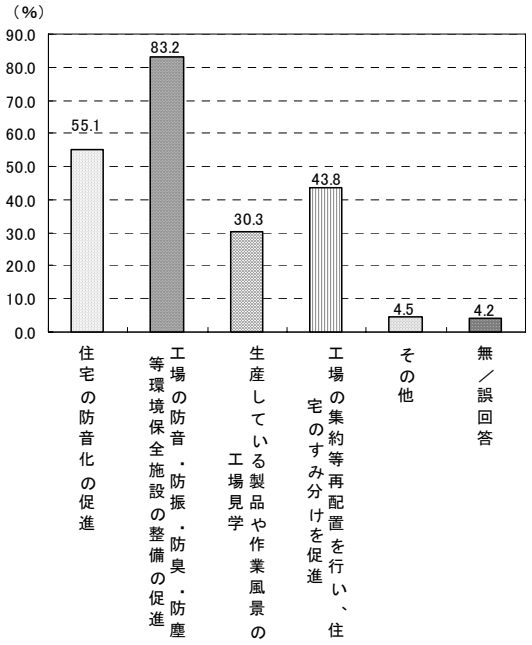
問４－５　最近、中高層のマンションなどの建設がみられますが、どのようにお考えになりますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。



２）工場と住宅の調和・共存について

住工混在のまちが墨田区の特徴の一つであり、工場と住宅が調和・共存していくために重要なこととして、「工場の防音・防振・防臭・防塵等の環境保全施設の整備の促進」が 83.2%で最も多く、次いで、「住宅の防音化の促進」55.1%が多くなっており、**工場の対策の必要性が認識が高くなっているが、住宅側の対策も必要**と考えられている。

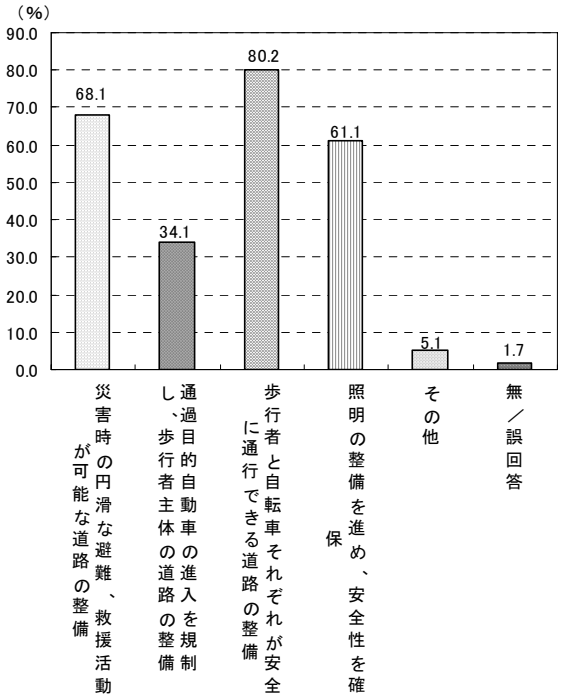
問４－６　工場と住宅が複合して立地している地域では、工場と住宅が調和・共存するためにどのようなことが重要だと思いますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。



３）生活道路について

日常生活に密接な生活道路について、「歩行者と自転車がそれぞれ安全に通行できる道路の整備」が 80.2%で最も多く、次いで、「災害時に円滑な避難、救援活動が可能な道路の整備」が 68.1%、「証明の整備を進め、安全性を確保」が 61.1%となっており、**歩行者や自転車の安全性確保と円滑な避難の確保を図るための整備**が望まれている。

問４－７　生活道路についてどのようにお考えになりますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。

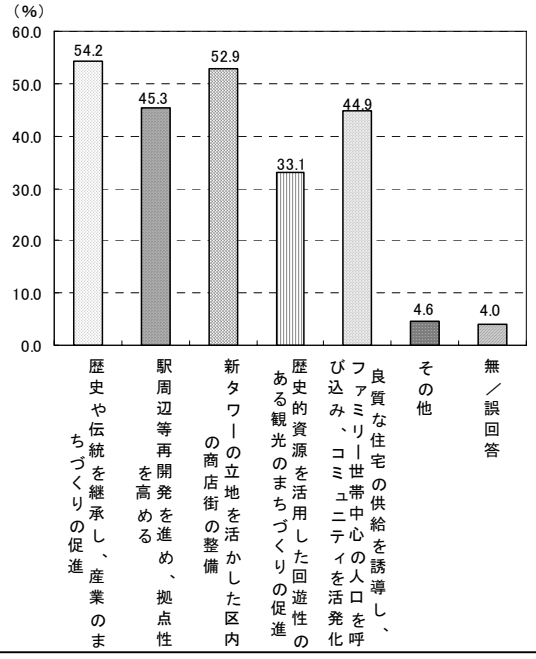


（６）活性化について

墨田区をさらに活性化させていくために重要なこととして、「歴史や伝統を継承し、産業のまちづくりを促進」が54.2%、「新タワーの立地を活かした区内の商店街の整備」が52.9%とそれぞれ過半数を占め、「駅周辺等再開発を進め、拠点性を高める」が45.3%、「良質な住宅の供給によるコミュニティの活発化」が44.9%の割合も高く、**墨田区の歴史・文化を活かしていくことが重要**であると認識されているといえる。

これに対し、新タワーの建設により期待される「歴史的資源を活用した回遊性のある観光のまちづくりの促進」は、33.1%となっており、今後、新タワーを観光資源としてＰＲし、浅草などとの連携をさらに高めていく必要があると考えられる。

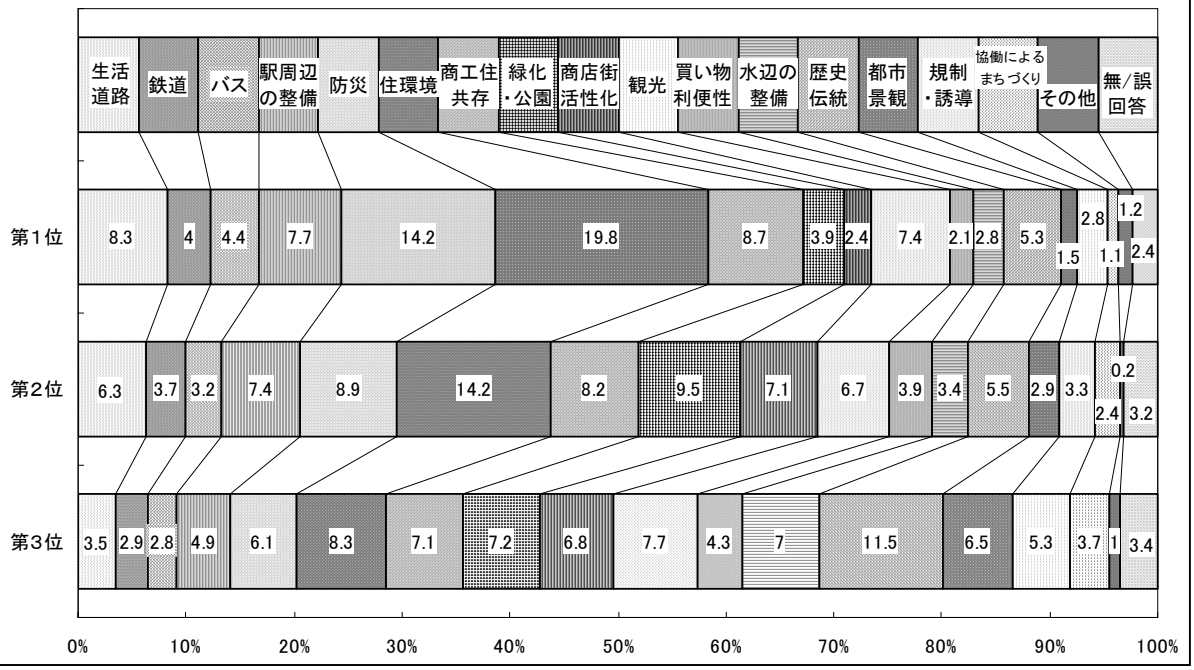
問４－８　墨田区をさらに活性化させていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。該当するものを３つまで選び○をつけてください。



（７）まちづくりの優先度について

墨田区のまちづくりを進めていく上での優先度として、第１位として、「住宅・住環境の整備・誘導」が 19.8%、「防災性の向上」が 14.2%、「商工住の共存」が 8.7%となっている。第２位は「住宅・住環境の整備・誘導」（14.2%）、「緑化・公園整備」（9.5%）、「防災性の向上」（8.9%）があげられ、第３位は「歴史・伝統」（11.5%）、「新タワーの集客力を活かした観光のまちづくり」（7.7%）があげられている。

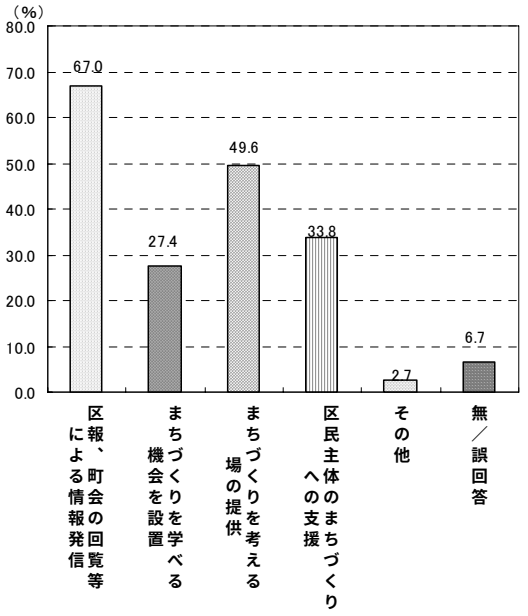
問４－９　今後、墨田区のまちづくりを進めていく上で、どのようなことを優先していくべきだとお考えですか。優先順位第１位から第３位まで該当するものを表の中から１つ選び番号を記入してください。



５．協働によるまちづくりについて

協働のまちづくりを進めていく上で、必要なこととして、「区報、町会の回覧等による情報発信」が67.0%、「まちづくりを考える場の提供」が49.6%、「区民主体のまちづくりへの支援」が33.8%となっており、協働のまちづくりを進めていくためには、まちづくりに関する情報の提供を進め、まちづくりを区民と行政が一緒になって考える場となる組織づくりが必要であると考えられている。

問５－１　墨田区では、まちづくりを住民のみなさんと協働によるまちづくりを進めていきたいと考えています。協働のまちづくりを進めていく上で、どのようなことが必要だと思いますか。該当するものをすべて選び○をつけてください。



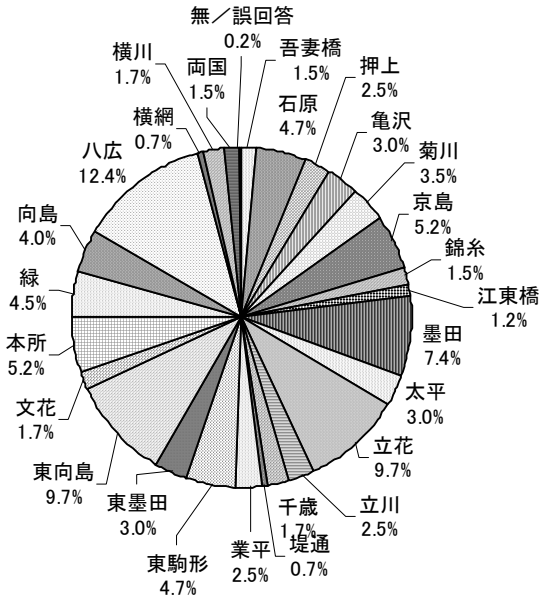
Ⅱ　事業所アンケート

１．回答者の属性

（１）事業所がある地域

「八広」が12.4%と最も高く、「東向島」と「立花」が共に9.7%と同じ割合になっている。

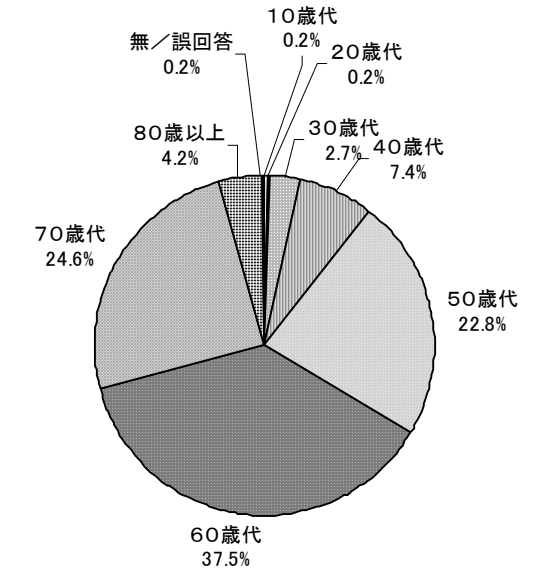
問１－１　事業所がある地域の番号を下の枠の中から選び、何丁目にあるか数字でご記入ください。



（２）代表者の年齢層

「60歳代」が37.5%と最も高く、「70歳代」が24.6%、「50歳代」が22.8%となり、熟年層が８割を占めている。

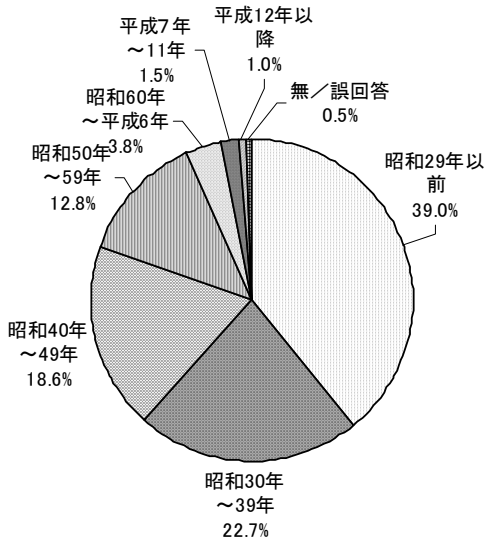
問１－２　代表者の方はおいくつですか。



（３）事業所の開設時期

「昭和29年以前」が39.0%と最も高く、「昭和30～39年」が22.7%、「昭和40～49年」が18.6%の順となり、古くから開設している事業所が多い。

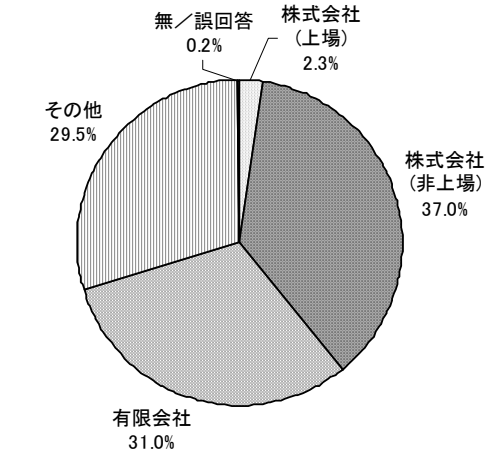
問１－３　事業所を開設したのはいつですか。



（４）事業所の形態

「株式会社（非上場）」が37.0%、「有限会社」が31.0%、「その他」が29.5%となっており、「その他」では個人経営が最も多い。

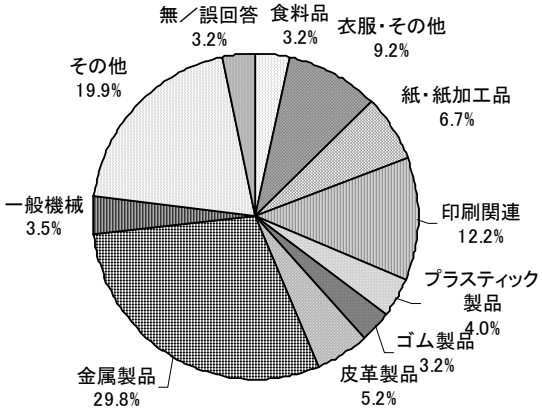
問１－４　事業所の形態はどのような形態ですか。



（５）業種

「金属製品」が29.8%と最も高く、次いで「その他」が19.9%、「印刷関連」が12.2%となっており、「金属製品」を扱っている事業所が多いことが伺える。「その他」ではアクセサリー製造と硝子製造関係が多い。

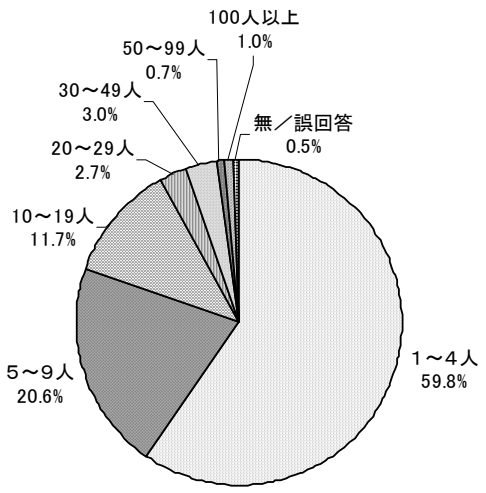
問１－５　事業所はどのような業種ですか。



（６）従業員数

「1～4人」が59.8%と過半数を占め、「5～9人」が20.6%と従業員10人未満の事業所が８割になり、少人数の事業所が多いことがわかる。

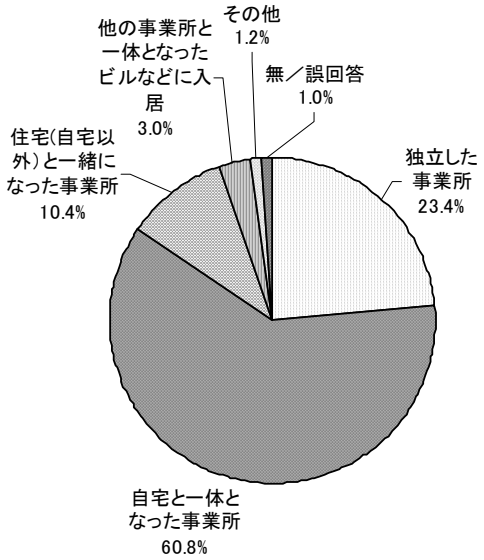
問１－６　事業所で働く従業員は何人ですか。



（７）事業所の形態

「自宅と一体となった事業所」が60.8%と過半数を占め、次いで「独立した事業所」が23.4%、「住宅（自宅以外）と一緒になった事業所」が10.4%となり、自宅兼事業所となっている事業所が多いことが伺える。

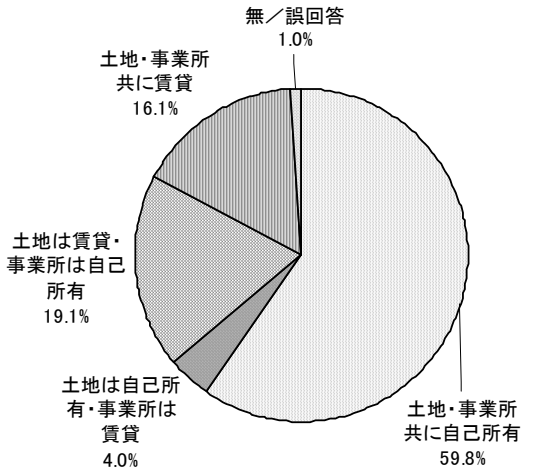
問１－７　事業所はどのような形態ですか。



（８）事業所の所有形態

「土地・事業所共に自己所有」が59.8%と過半数を占め、次いで「土地は賃貸・事業所は自己所有」が19.1%、「土地・事業所共に賃貸」が16.1%の順になっている。

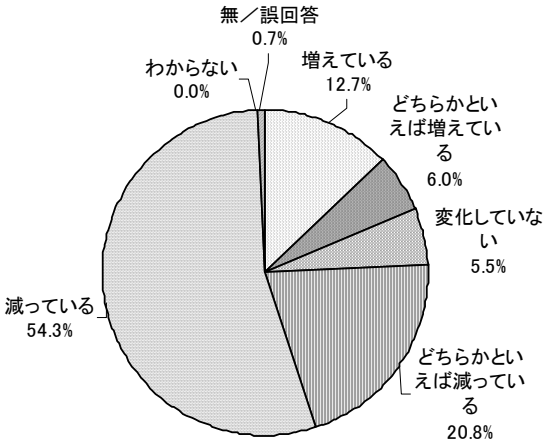
問１－８　事業所の所有形態は、どのような形態ですか。



（９）出荷額等の変化

「減っている」が54.3%と半数を占め、「どちらかといえば減っている」が20.8%、「増えている」が12.7%となり、10年前と比べ「減っている」と考えている事業所が多い。

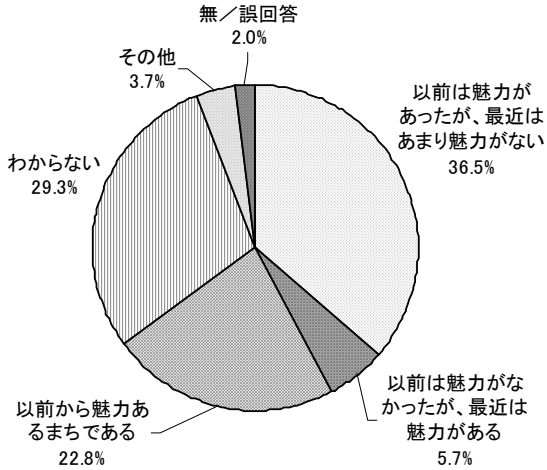
問１－９　10 年前と比べて、事業所の出荷額等はどのように変化しましたか。



（10）墨田区の魅力の有無

「以前は魅力があったが、最近はあまり魅力がない」が 36.5%と最も高く、「わからない」が 29.3%、「以前から魅力あるまち」が 22.8%となっている。

問１－10　墨田区は事業を行う上で、魅力あるまちだと思いますか。

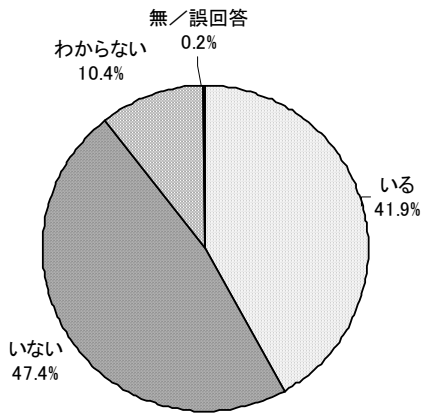


２．今後の事業展開について

（1）後継者の有無

「いる」が41.9%、「いない」が47.4%といずれも４割以上を占めている。

問２－１　事業所の後継者はいらっしゃいますか。

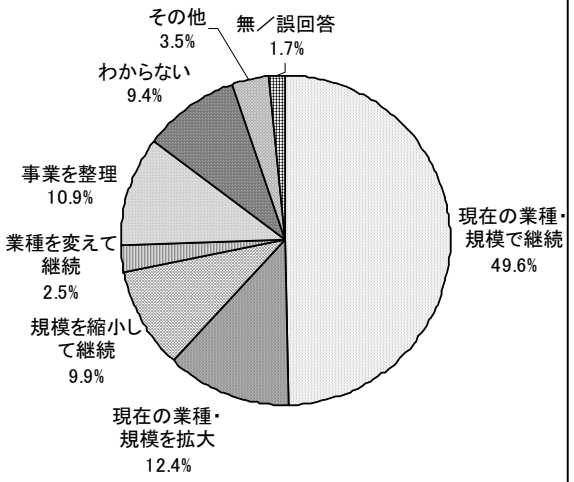


（2）今後の事業展開

「現在の業種・規模で継続」が49.6%と半数を占め、次いで「現在の業種・規模を拡大」が12.4%、また「事業を整理」が10.9%となっている。

後継者が「いる」事業所では、「現在の業種・規模で継続」が50.8%であり、ついで「現在の業種・規模を拡大」が21.3%となっているが、後継者が「いない」事業所では、「現在の業種・規模で継続」が42.9%、「事業を整理」が21.7%であり、後継者の有無が今後の事業展開に影響を与えていることがわかる。(問２－１とのクロス集計)

問２－２　今後の事業展開について、どのようにお考えですか。

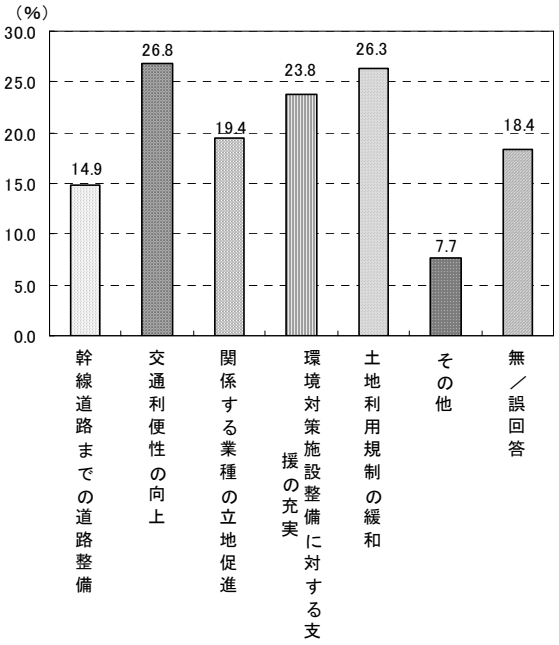


（３）事業展開を進める上でのまちづくりへの要望

「交通利便性の向上」が26.8%、「土地利用規制の緩和」が26.3%、「環境対策施設整備に対する支援の充実」が23.8%の順になっている。両者にさほど大きな差は見られず、いずれも事業を展開していく上で環境対策を含めた土地の利便性を求められていると考えられる。

～都市像検討のキーワード～
「便利」、「交流」

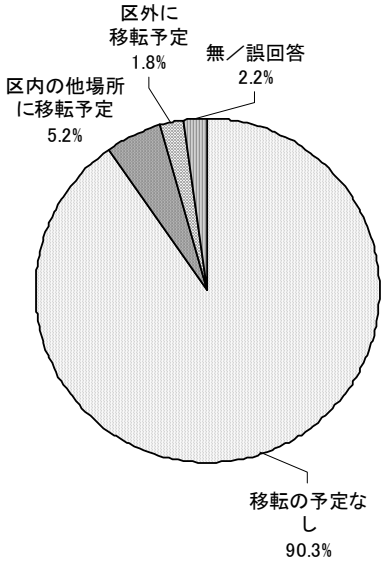
問２－３　今後、事業展開等を進めていく上で、まちづくりに対してどのようなことを望みますか。



（４）事業所の移転予定

「移転の予定なし」が90.3%と殆どの事業所が移転を考えておらず、自宅兼事業所の人が多いこと、今後も事業を継続していく意向が高いことも含め、現在の場所で事業をしていく人が多いことが伺える。

問２－４　今後、事業所の移転の予定はありますか。

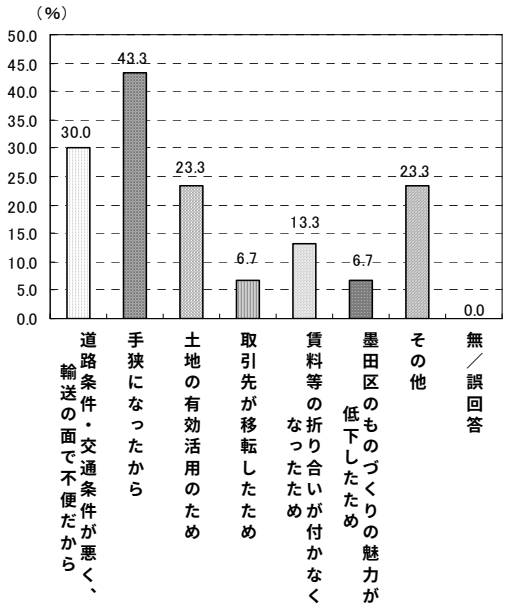


（５）移転理由

「移転予定」と回答者した人の「移転理由」として、「手狭になったから」43.3%、「道路条件・交通条件が悪く、輸送の面で不便だから」が30.0%となっている。

事業展開を進める上でのまちづくりの要望をみると、「交通の利便性向上が」最も多くあげられており、墨田区で事業展開を進めていくための条件として、交通条件が大きなウェートを占めていることがわかる。

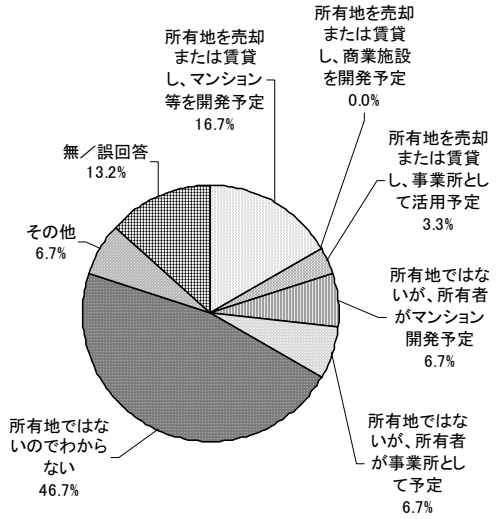
問２－５　移転の理由は、どのようなことですか。
（N=30）



（６）移転後の敷地の利用方法

「移転予定」と回答した人の移転後の敷地の利用方法として、「所有地でないのでわからない」が46.7%となっているが、土地を所有している人は、「マンション等の開発」が16.7%と多くなっている。

問２－６　移転後、現在の敷地はどのように活用されますか。（N=30）

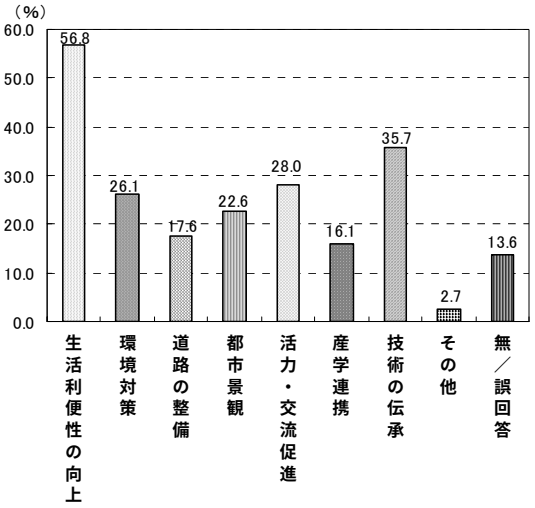


３．墨田区のまちの将来イメージについて

「生活利便性の向上」が 56.8%と最も高く、「技術の伝承」が 35.7%、次いで「活力・交流促進」が 28.0%となっており、「生活のしやすさ」と「技術の伝承」の大切さを基本としたイメージがもたれている。

～都市像検討のキーワード～
「便利」、「伝承」、「活力」

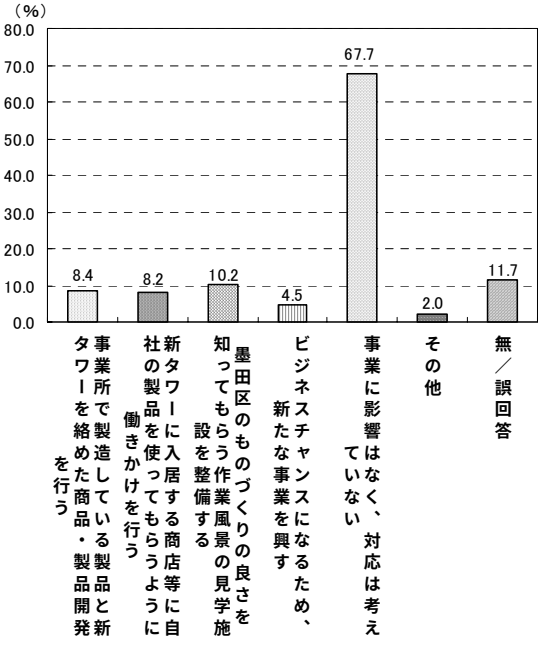
問３－１　墨田区の将来のまちづくりを事業所経営者の視点で考えた場合、どのようなことをテーマにするべきだとお考えになりますか。



４．新タワーについて

「対応は考えていない」が67.7%で最も多くなっている。対応を考えている事業者では、「ものつくりの良さを知ってもらう作業風景の見学施設を整備する」が10.2%となっているが、現在のところ、事業に対する新タワーの影響はあまり、直接的に捉えられていない。

問４－１　世界一の高さを誇る新タワーの建設地が押上・業平橋地区に決まりました。新タワーの建設に対する対応、事業に対して影響は、どのようにお考えですか。



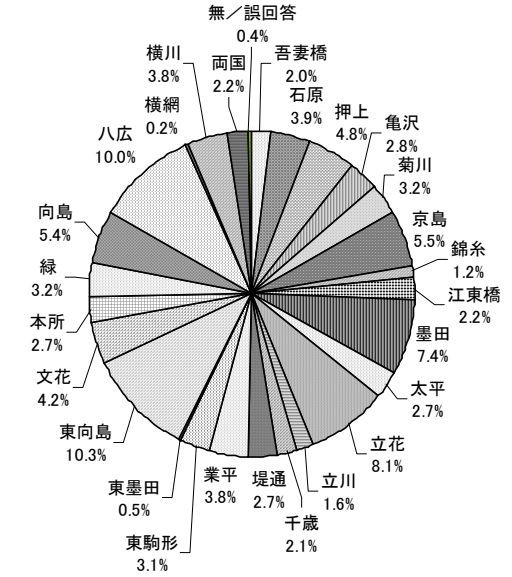
Ⅲ　商店主アンケート

１．回答者の属性

（１）店舗がある地域

「東向島」が10.3%、「八広が」10.0%、「立花」が8.1%の順であり、墨田区の町丁目別人口の割合とほぼ同様の結果となっている。

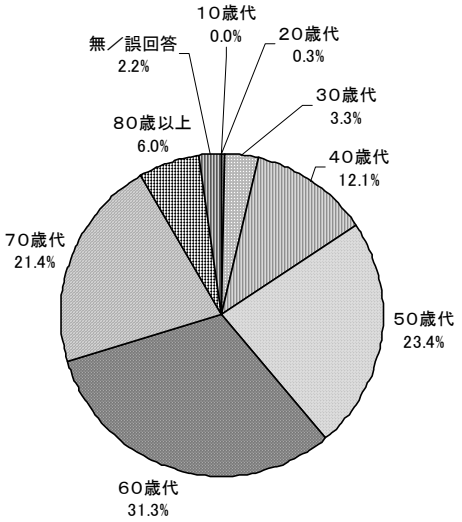
問１－１　お店がある地域の番号を下の枠の中から選び、何丁目にあるか数字でご記入ください。



（２）経営者の年齢層

「60歳代」が31.3%と最も多く、次いで「50歳代」が23.4%、「70歳代」が21.4%となっており、熟年層が７割を占めている。

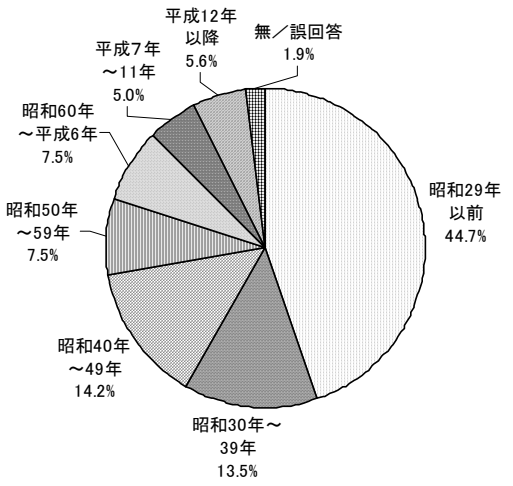
問１－２　お店の経営者の方はおいくつですか。



（３）店舗の開設時期

「昭和29年以前」が44.7%と約半数を占め、「昭和40年～49年」が14.2%、「昭和30年～39年」が13.5%となり、古くから開業している店舗が多いことが伺える。

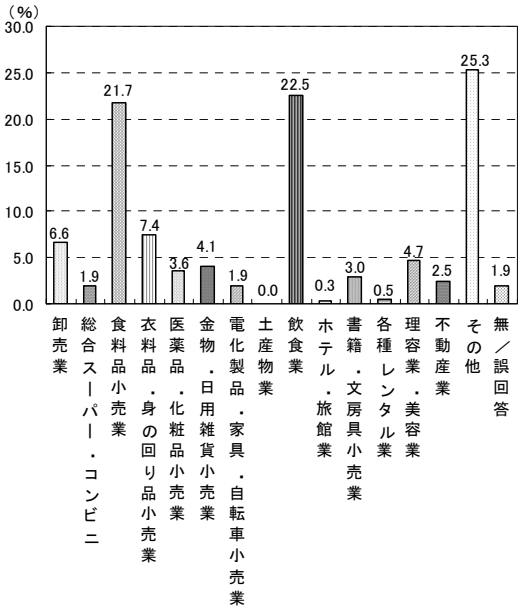
問１－３　お店を開設したのはいつですか。



（４）業種

「その他」が25.3%と最も高く、その中ではクリーニング業､タバコ小売業､印章業が多い。次いで「飲食業」が22.5%､「食料品小売業」が21.7%となり、食品関係を扱っている店舗が多い。

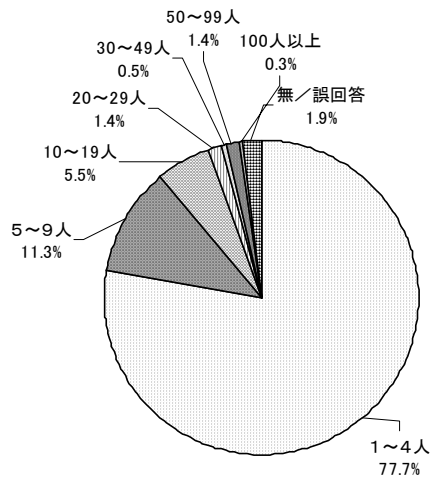
問１－４　お店はどのような業種ですか。



（５）従業員数

「１～４人」が77.7%と過半数を占め、「５～９人」が11.3%と従業員10人未満の店舗が約９割になり、少人数で働いている店舗が多いことが伺える。

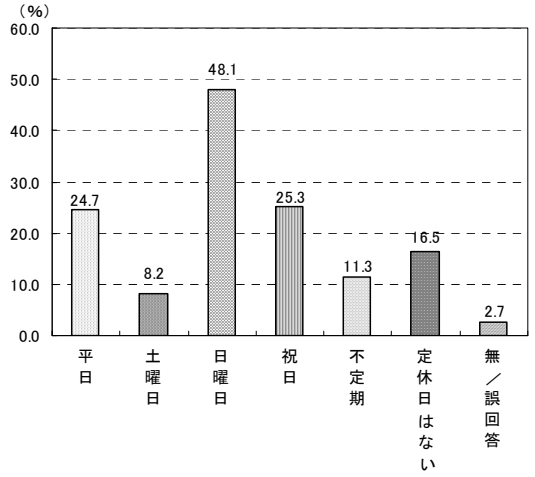
問１－５　お店で働く従業員は何人ですか。



（６）定休日

「日曜日」が48.1%と最も多く、「祝日」が25.3%、「平日」が24.7%となる。日曜日に休む店舗が多いが、祝日休業はその約半分となり、祝日は開店する店舗が多いことが伺える。

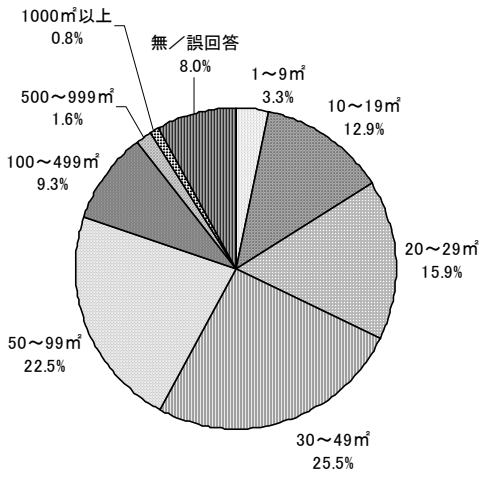
問１－６　お店の定休日はいつですか。



（８）店舗の広さ

「30～49㎡」が25.5%、「50～99㎡」が22.5%、「20～29㎡」が15.9%の順となり、100㎡未満が過半数を占め、戸建ての家と同様な広さの店舗が多い。

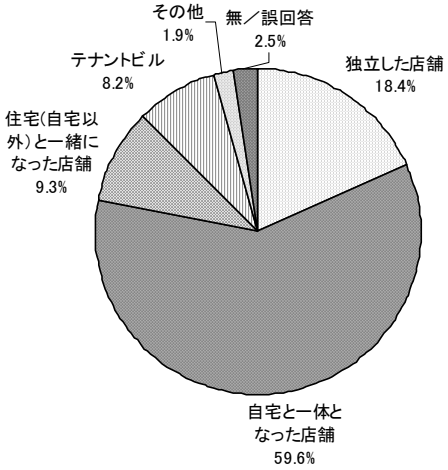
問１－８　お店の広さは、どれくらいの面積ですか。



（９）店舗の形態

「自宅と一体となった店舗」が59.6%と最も多く、次いで「独立した店舗」が18.4%となるが、「住宅と一緒になった店舗」が9.3%となり、自宅及び自宅以外の住宅と店舗が一体となったお店が過半数を占めている。

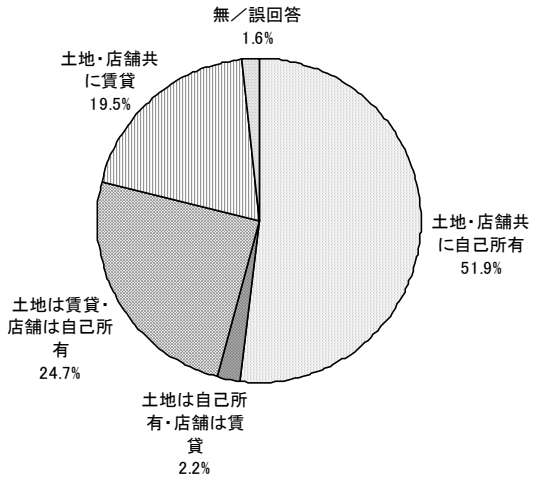
問１－９　お店はどのような形態ですか。



（１０）店舗の所有形態

「土地・店舗共に自己所有」が51.9%と半数を占め、次いで「土地は賃貸・店舗は自己所有」が24.7%、「土地・店舗共に賃貸」が19.5%となっている。

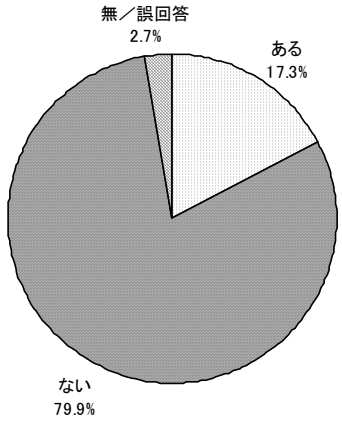
問１－１０　お店の所有形態は、どのような形態ですか。



（１１）駐車場の有無

「ない」が79.9%と８割を占めており、自動車利用による来店者への対応が課題であると考えられる。

問１－１１　お店に駐車場はありますか。

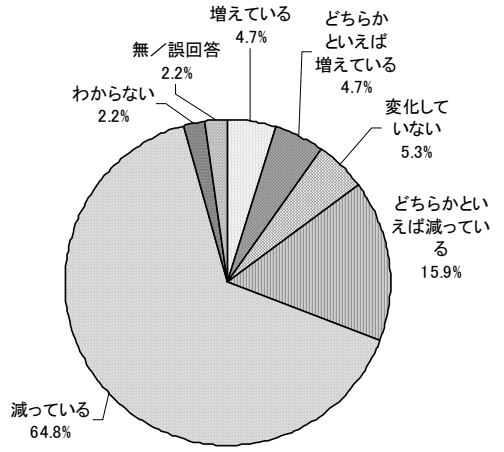


２．経営を取り巻く状況・変化について

（1）売り上げの変化

「減っている」が64.8%と最も高く、「どちらかといえば減っている」が15.9%となり、10年前に比べ「減っている」と考えている店舗が過半数を占めている。

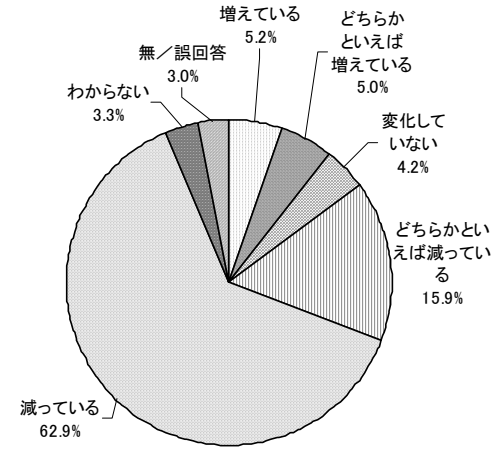
問２－１　10 年前と比べて、お店の売上げはどのように変化しましたか。



（2）来店者の変化

「減っている」が62.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば減っている」が15.9%となり、上記と同様な割合で10年前と比べ、客足が減っていると考えている店舗が多く、売り上げに影響していると考えられる。

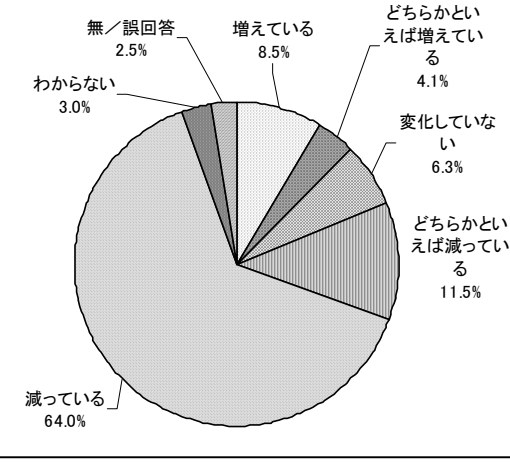
問２－２　10 年前と比べて、お客さんの数はどのように変化しましたか。



（2）来店者の変化

「減っている」が 64.0%と過半数を占め、「どちらかといえば減っている」が 11.5%と上記の売り上げ､客足の減少に連動して店舗数も減り、さらに客足が遠のくという悪循環になっている。

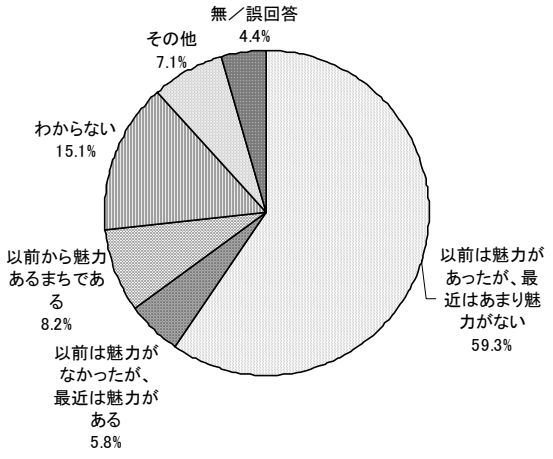
問２－３　10 年前と比べて、近所のお店の数はどのように変化しましたか。



（４）墨田区の魅力の有無

「以前は魅力があったが、最近はあまり魅力がない」が 59.3%と過半数を占め、墨田区に魅力を感じる店舗は 15%程度であり、商店を経営していく上での魅力はあまり感じられていない。

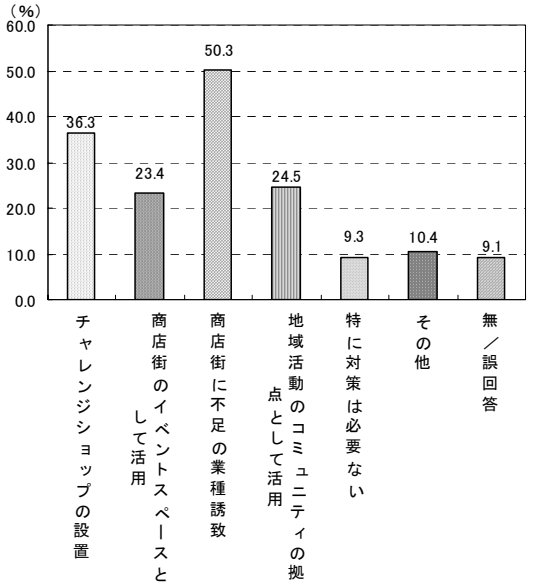
問２－４　墨田区はお店を経営していく上で、魅力あるまちだと思いますか。



（５）空き店舗対策で有効だと思うこと

「商店街に不足の業種誘致」が50.3%と最も高く、次いで「チャレンジショップの設置」が36.3%となっており、商店街に活気を持たせたいという意志が伺える。また、「商店街のイベントスペース」や「地域活動のコミュニティの拠点」の割合も高いため、空き店舗を何らかの形で利用したいと考えている人が多い。

問２－５　区内の商店街などでは、空き店舗がみられるようになっています。空き店舗対策として、どのようなことが有効だとお考えになりますか。

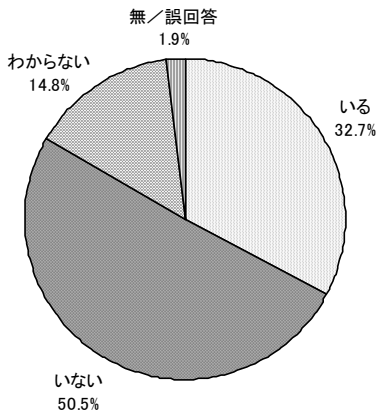


３．今後の事業展開について

（1）後継者の有無

「いない」が50.5%と半数が後継者がいない厳しい状況であり、「わからない」が14.8%と今後不明瞭な部分も伺える。また、後継者がいないことからも経営者の年齢層で熟年層が高いことも伺える。

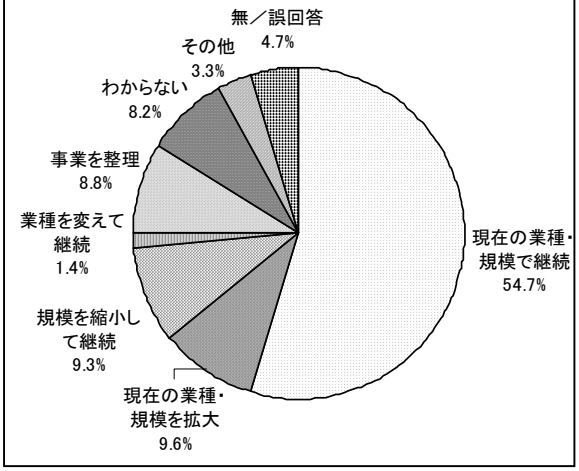
問３－１　お店の後継者はいらっしゃいますか。



（2）今後の事業展開

「現在の業種・規模で継続」が54.7%と最も多く、他はほぼ同じ割合になっている。客足・売り上げともに減少しているが、規模の拡大・縮小も含め、今後も継続の意志が高いことが伺える。

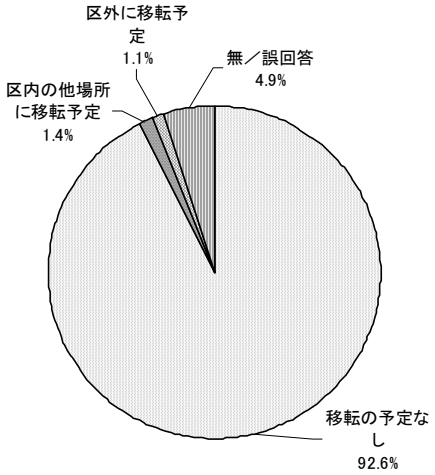
問３－２　今後の事業展開について、どのようにお考えですか。



（3）移転予定

「移転の予定なし」が 92.6%と殆どの人が移転を考えておらず、自宅兼店舗の人が多いこと、今後も事業の継続の意向が高いことも含め、現在の場所で事業を継続していく人が多いことが伺える。

問３－３　今後、事業所の移転の予定はありますか。

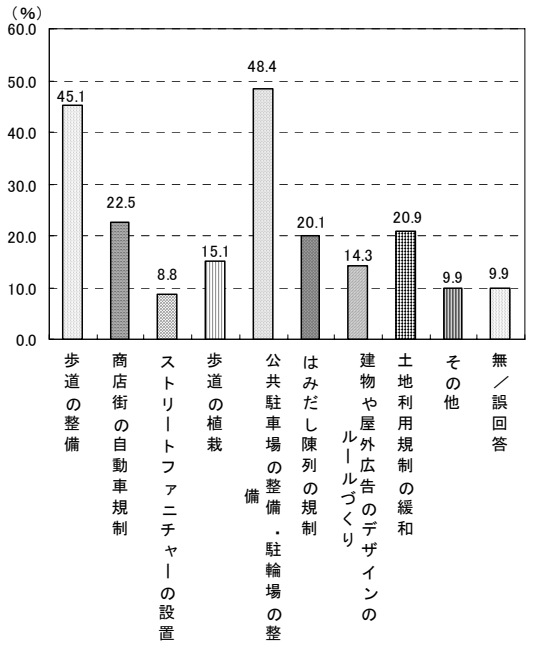


（4）経営の視点でみたまちづくりへの要望

「公共駐車場の整備･駐輪場の整備」が48.4%と最も高く、「歩道の整備」が45.1%となり、他はほぼ横ばいとなっている。店舗の駐車場がない結果が高いことからも駐車場を望む声が高く、商店へと足を向きやすいよう駐車場・駐輪場や道路の整備が望まれていることが考えられる。

～都市像検討のキーワード～
「便利」

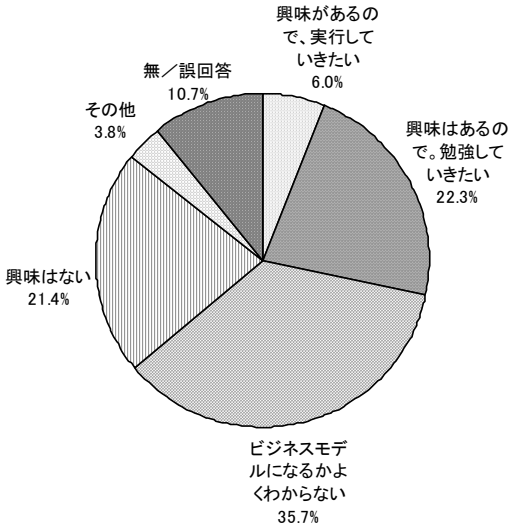
問３－４　今後、商店の経営を進めていく上で、まちづくりに対してどのようなことを望みますか。



（5）コミュニティ・ビジネスに対する考え方

「ビジネスモデルになるかよくわからない」が35.7%と最も高く、「興味があるので、勉強していきたい」が22.3%、「興味はない」が21.4%とほぼ同じ割合となる。興味の有無がはっきりと分かれる人がいる反面、未知な部分で戸惑う人が多いと考えられる。

問３－５　最近、コミュニティの中にビジネスの視点を入れて地域社会を再生し、その活動で得た利益を地域に還元する「コミュニティ・ビジネス」という新しい動きが出てきています。このような動きをどのようにお考えになりますか。

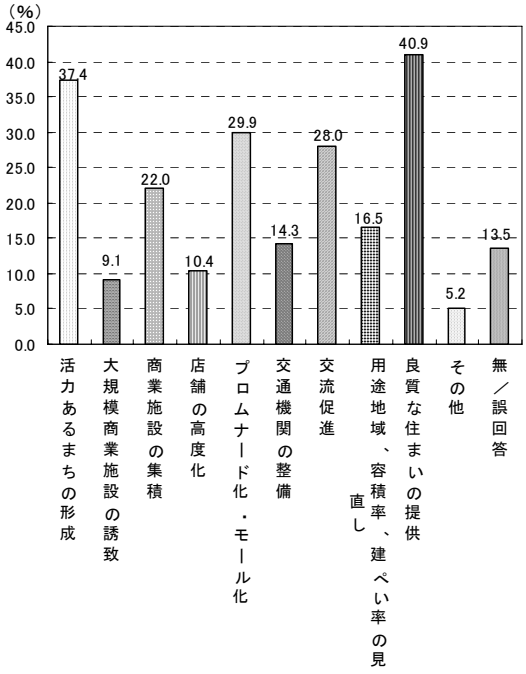


４．墨田区のまちの将来イメージについて

「良質な住まいの提供」が 40.9%、次いで「活力あるまちの形成」が 37.4%となっている。現在の墨田区に魅力を感じず、客足も遠のいていることから、人口増加を誘導し、集客数の増加を望めるまちづくりを望んでいる人が多い。

～都市像検討のキーワード～
「便利」、「にぎわい」、「活力」

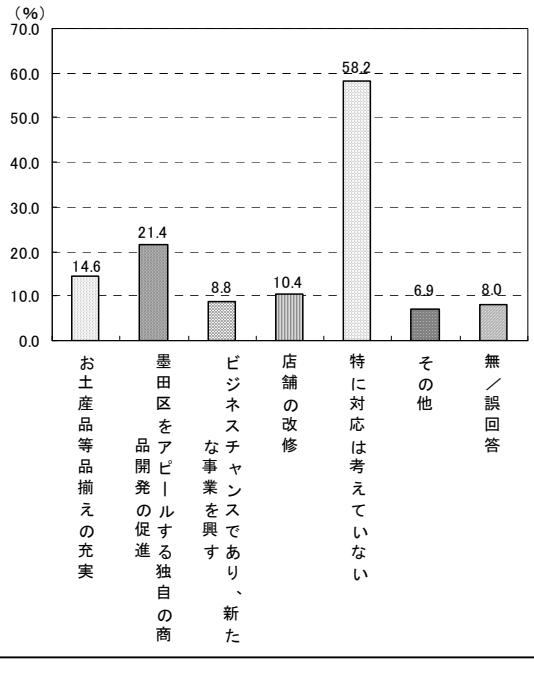
問４－１　墨田区の将来のまちづくりを商業振興の視点で考えた場合、どのようなことをテーマにするべきだとお考えになりますか。



５．新タワーについて

「特に対応は考えていない」が58.2%と最も高く、他は割合にさほど差は見られないため、新タワーの設立にも商店の集客に対して特別な対策をしようという店舗は少ないことが伺える。

問５－１　世界一の高さを誇る新タワーの建設地が押上・業平橋地区に決まりました。新タワーの建設に向けてどのような対応をお考えですか。



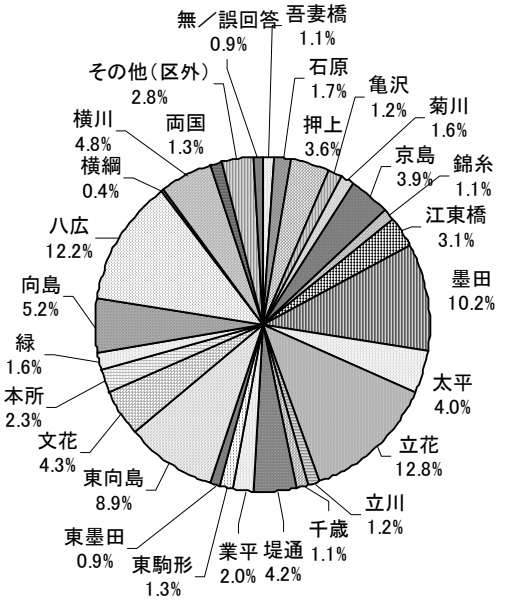
Ⅳ　中学生アンケート

１．回答者の属性

（1）居住地

「立花」が12.8%、「八広」が12.2%と高く、次いで「墨田」が10.2%、「東向島」が8.9%とこの４つの地域の割合が多くなっている。

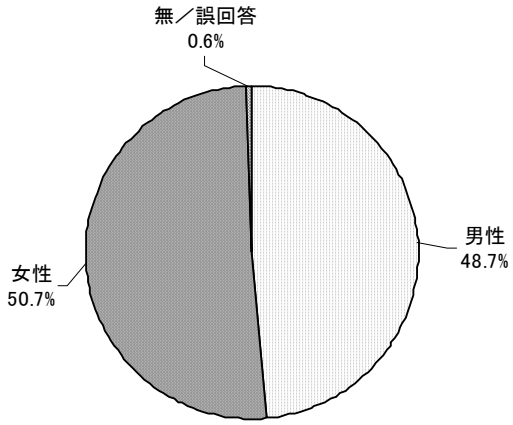
問１－１　あなたが住んでいる地域の番号を下の枠の中から選び、何丁目に住んでいるか数字で記入してください。



（2）回答者の性別

「男性」と「女性」の割合はほぼ半々となっている。

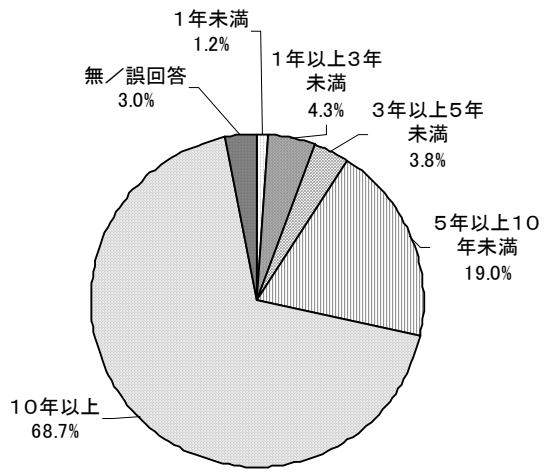
問１－２　あなたは、男性ですか。女性ですか。



（３）居住年数

「10年以上」が68.7%と半数以上を占め、「5年以上10年未満」が19.0%となっており、居住年数の長い人が多い。

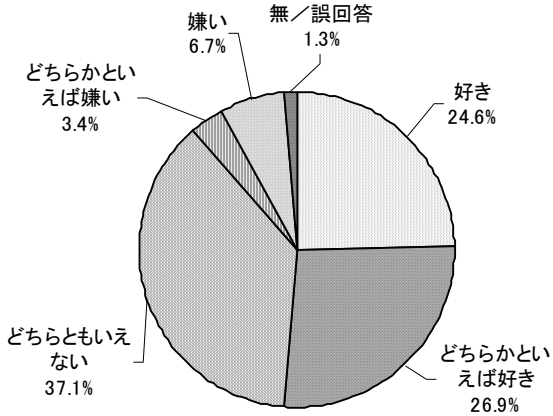
問１－３　墨田区に住んで何年になりますか。



（４）墨田区の評価

「どちらともいえない」が37.1%となっているが、「好き」が24.6%、「どちらかといえば好き」が26.9%と半数が墨田区に対して好印象をもっている。小学生と比べると「どちらともいえない」の割合が多く、子どもの成長につれ、意識が変化していることがわかる。

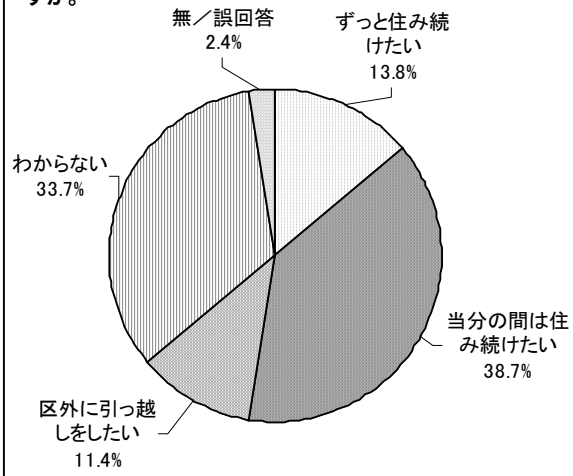
問１－４　あなたは墨田区が好きですか。



（５）定住意向

「当分の間は住み続けたい」が38.7%、「ずっと住み続けたい」が13.8%となり、半数の人が「住み続けたい」と思っている。

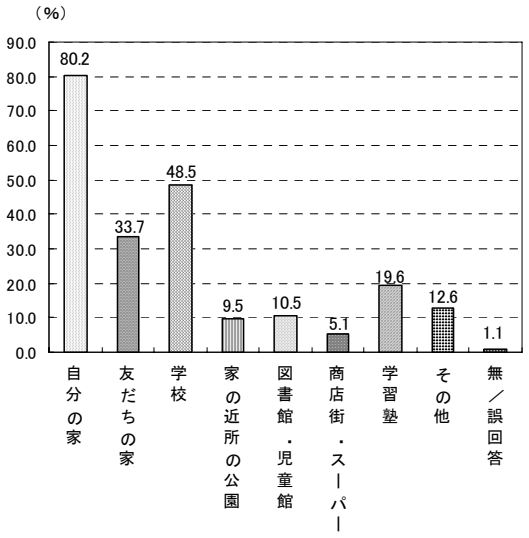
問１－５　これからも墨田区に住み続けたいと思いますか。



（６）放課後の場所

「自分の家」が80.2%と最も高く、次いで「学校」48.5%、「友だちの家」33.7%となり、日常の半数を占める生活区域で過ごす人が多い。

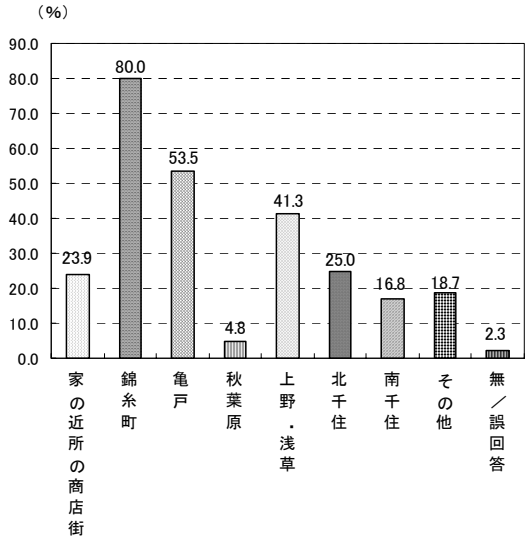
問１－６　放課後はどこですごしていますか。



（７）買い物場所

「錦糸町」が80.0%で最も高く、大規模大型施設の立地による結果がみられ、「亀戸」53.5%、「上野・浅草」41.3%と隣接する区外に出かける人も多い。小学生と比べると、活動範囲が広がっていることがわかる。

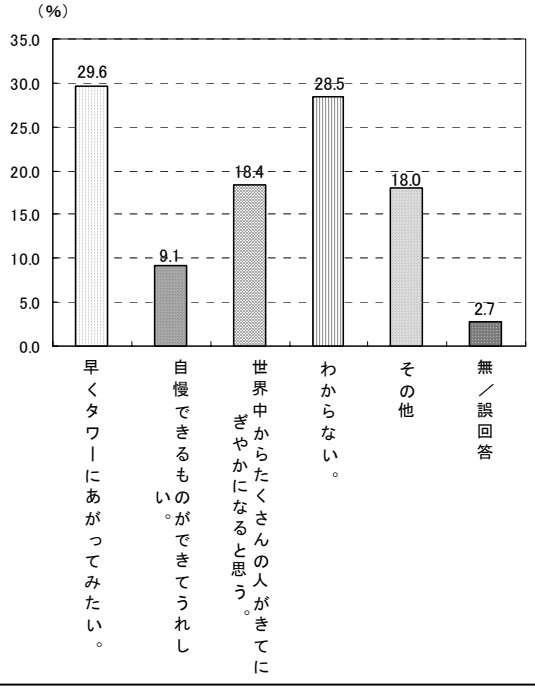
問１－７　家族や友だちと買い物をする場所は、どこですか。



２．新タワーの評価について

「早くタワーにあがってみたい」が29.6%と新タワーに対する期待が大きいが、「わからない」が28.5%とほぼ同評価となっている。小学生と比較すると、「早くタワーにあがってみたい」の割合が減り、「わからない」の割合が増加しており、期待する半面、完成してみないと評価できない面もみられる。

問２－１　押上・業平橋地区に世界一の高さ約 610m（東京タワーの約２倍の高さ）の新タワーがつくられることになりました。この新タワーについてどのように思いますか。

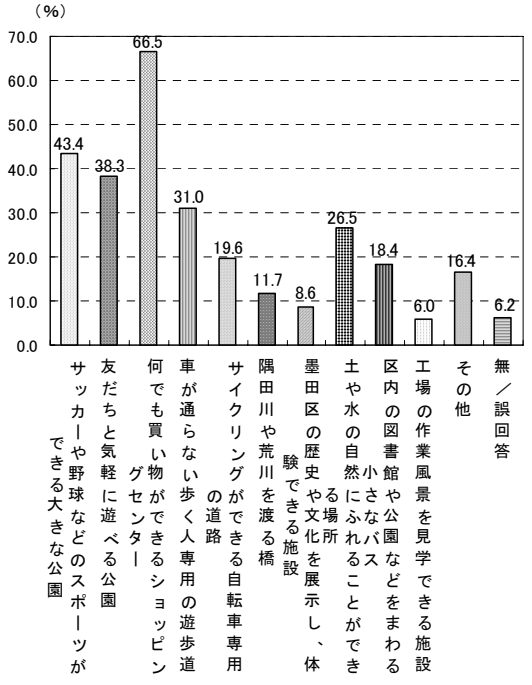


４．墨田区のまちの将来イメージについて

（１）希望・要望

「何でも買い物ができるショッピングセンター」が66.5%と最も高く、買い物に行く場所が錦糸町、区外の評価が高いことからも商業施設を望む声が多い。また、次いで「スポーツができる公園」43.4%、「気軽に遊べる公園」38.3%となっており、遊べる空間が少ないことが伺える。

問４－１　区内にあったらいいと思うものはどんなものですか。あったらいいと思うものをすべて選び○をつけてください。

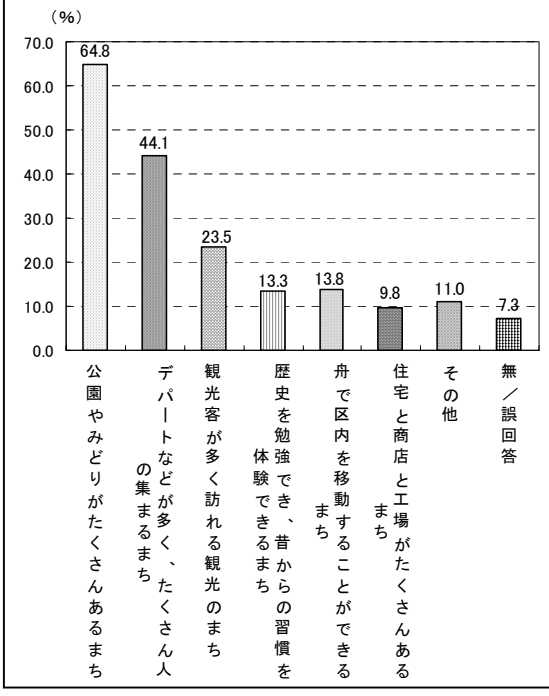


（２）将来イメージ

「公園やみどりがたくさんあるまち」が64.8%と最も高く、次いで「デパートなどが多く、たくさん人の集まるまち」が44.1%となっており、上記の結果と同様の要望が多い。憩いの場と買い物などの利便性を求めている人が多い。

～都市像検討のキーワード～
「うるおい」、「やすらぎ」、「活力」、「にぎわい」

問４－２　将来、墨田区はどのようなまちになってほしいと思いますか。あてはまるものをすべて選び○をつけてください。



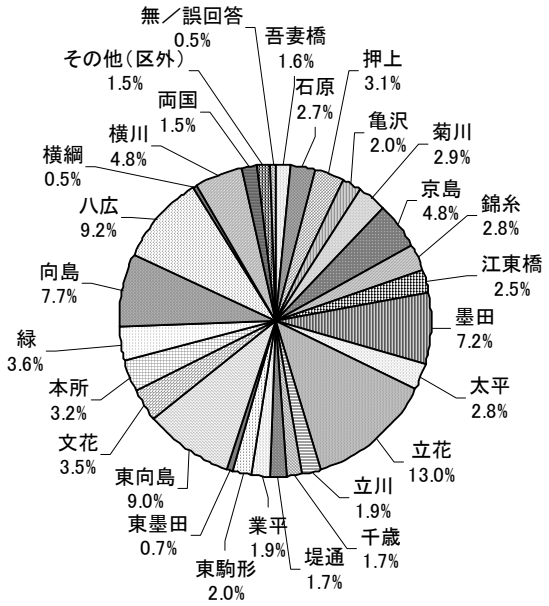
Ⅴ　小学生アンケート

１．回答者の属性

（１）居住地

「立花」が13.0%、「八広」が9.2%、「東向島」が9.0%の順となっており、墨田区の町丁目別人口の割合とほぼ同様の結果となっている。

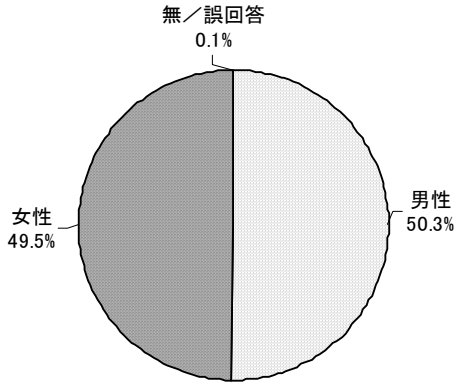
問１－１　あなたが住んでいる地域の番号を下の枠の中から選び、何丁目に住んでいるか数字で記入してください。



（２）回答者の性別

「男性」と「女性」の割合は半々となっている。

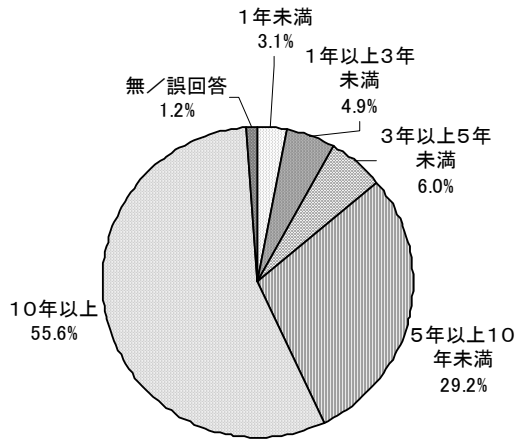
問１－２　あなたは、男性ですか。女性ですか。



（３）居住年数

「10年以上」が55.6%と半数以上を占め、「5年以上10年未満」が29.2%と長く住んでいる人が多い。

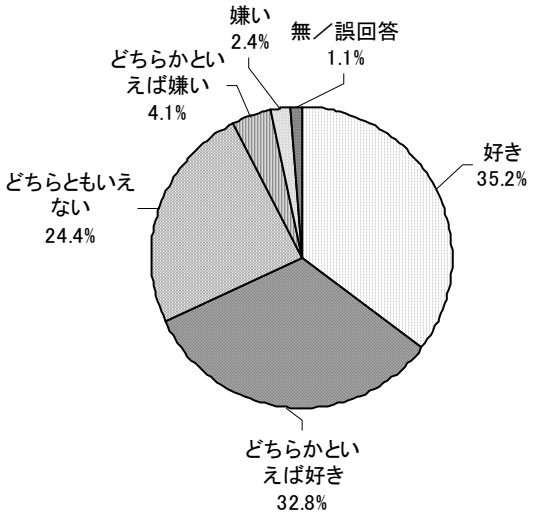
問１－３　墨田区に住んで何年になりますか。



（４）墨田区の評価

「好き」が35.2%、「どちらかといえば好き」が32.8%となり、「好き」と答える人が半数以上を占めている。

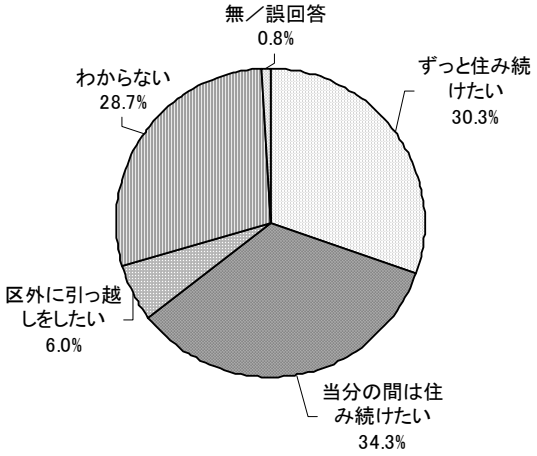
問１－４　あなたは墨田区が好きですか。



（５）定住意向

「当分の間は住み続けたい」が34.3%、「ずっと住み続けたい」が30.3%となり、約６割の人が「住み続けたい」と思っている。

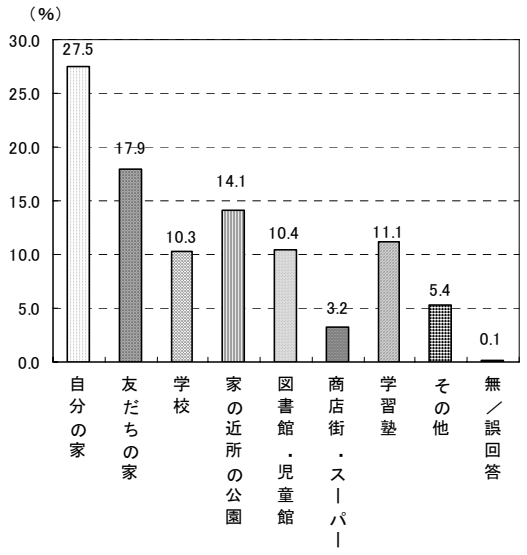
問１－５　これからも墨田区に住み続けたいと思いますか。



（６）放課後の場所

「自分の家」が27.5%と最も高く、次いで「友だちの家」が17.9%、「家の近所の公園」が14.1%となっており、家及びその周辺で活動していることがわかる。家を中心とした行動周辺が多い。

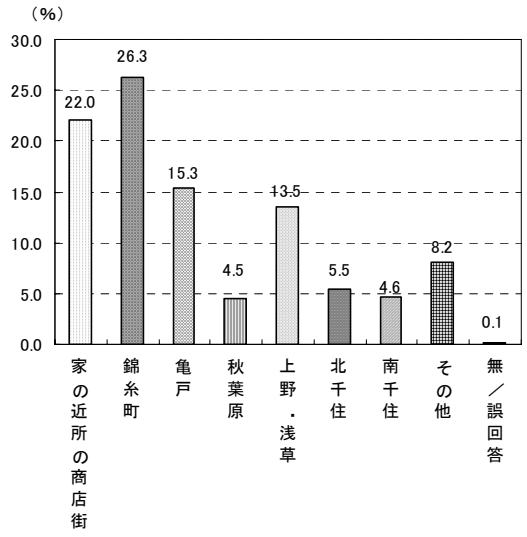
問１－６　放課後はどこですごしていますか。



（７）買い物場所

「錦糸町」が26.3%、「近所の商店街」が22.0%となり、区内の大規模商業施設と商店が多く、区内で買い物を済ます人が多い。

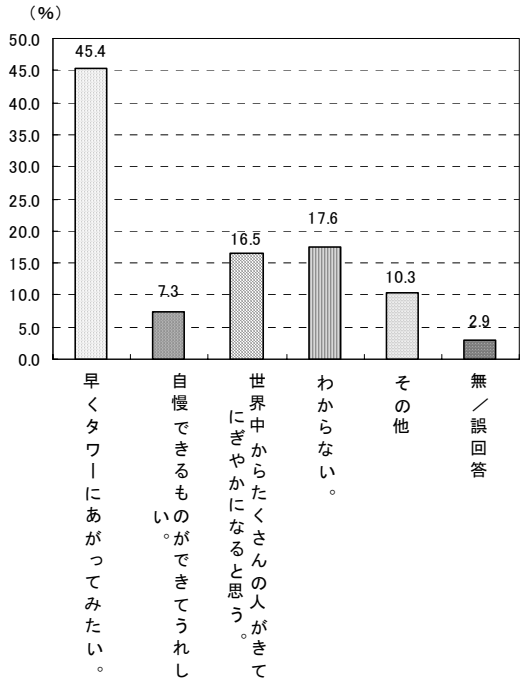
問１－７　家族や友だちと買い物をする場所は、どこですか。



２．新タワーの評価について

「早くタワーにあがってみたい」が45.4%と最も高く、他が20%未満のことから、新タワーの高さに期待が高いことが伺える。

問２－１　押上・業平橋地区に世界一の高さ約 610m（東京タワーの約２倍の高さ）の新タワーがつくられることになりました。この新タワーについてどのように思いますか。

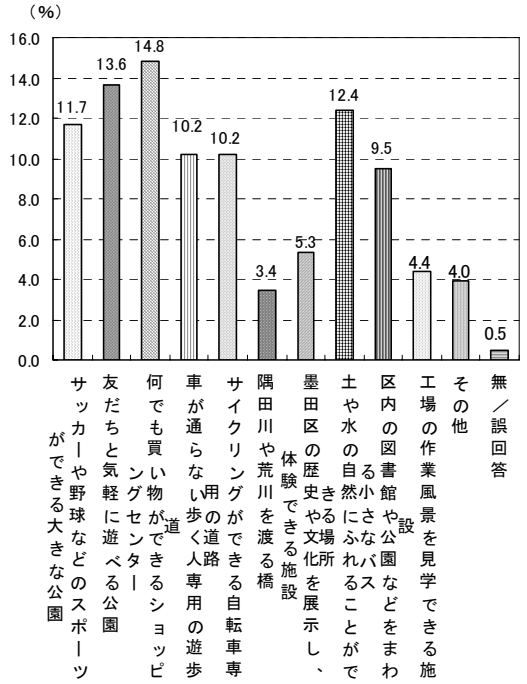


４．墨田区のまちの将来イメージについて

（1）希望・要望

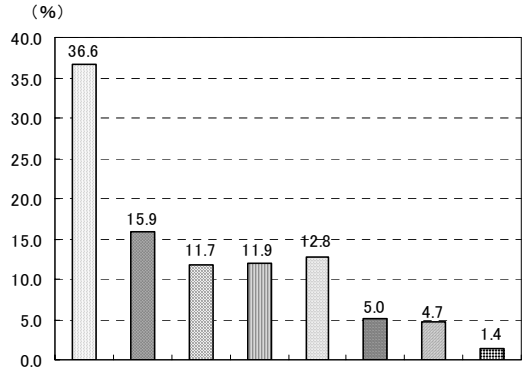
「何でも買い物ができるショッピングセンター」が14.8%、「気軽に遊べる公園」が13.6%、「自然にふれることができる場所」12.4%となり、買い物などの商業施設と憩いの場を求めている人が多い。また、遊歩道や自転車専用の道路、区内をまわるバスへの要望も高いため、交通の利便性も求めていることがわかる。

問４－１　区内にあったらいいと思うものはどんなものですか。あったらいいと思うものをすべて選び○をつけてください。



（2）将来イメージ

「公園やみどりがたくさんあるまち」が36.6%と最も多く、他はほぼ横ばいとなっている。上記の要望よりも顕著に憩いの場を求める人が多い。

～都市像検討のキーワード～
「うるおい」、「やすらぎ」、「活力」、「にぎわい」

問４－２　将来、墨田区はどのようなまちになってほしいと思いますか。あてはまるものをすべて選び○をつけてください。